

財団法人 黒潮生物研究財団

平成 23 年度（第 12 期）事業報告書

目 次

平成 23 年度（第 12 期）事業報告	1
事業記録	1
事業の内容	5
1. 調査研究・資料の収集に関する事業	5
(1) 黒潮生物研究所又は研究所職員が主体となって実施した調査研究	5
(2) 研究協力・共同研究等	8
2. 調査研究の援助・資料の利用に関する事業	10
(1) 研究助成事業	10
(2) 東日本大震災で被害を受けた研究者・学生に対する支援	11
(3) 研究所利用者の受け入れ	11
(4) 宿泊棟の建設および研究所の改装	12
3. 環境の保全に資する事業	13
(1) サンゴ群集の保全のためのオニヒトデ駆除	13
(2) 自然再生事業などへの協力	13
4. 教育啓蒙・普及啓発に関する事業	16
(1) 博物館登録への準備	16
(2) イベント等の開催	16
(3) 団体への参加、委員・役員等の就任状況	21
(4) 学校教育・地域の環境教育活動等への協力	22
(5) 広報・出版	25
(6) マスコミ	26
5. 請負調査・委託業務等	28
6. 業 績	29
(1) 著 作	29
(2) 講演等	31
(3) 調査報告書等	33
(4) 研究所利用者の業績	34
7. 寄付等	36

I. 平成 23 年度(第 12 期)事業報告

事業記録

	件名	備考(主催者・場所等)	担当
平成 23	4月 1日-5/29 国立科学博物館宝石サンゴ展	東京都(展示協力)	岩瀬
	4日 平成 23 年度研究助成 選考結果発表		岩瀬
	5日 平成 23 年度研究助成 震災特別枠追加助成発表		岩瀬
	17日 大阪湾海岸生物研究会 定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
	25日 CURRENT Vol. 12 No. 1 発行		編集:中地
	30日 大阪湾海岸生物研究会 定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
5月	7日 NPO 法人太平洋ありきたり水族研究センター設立総会	神戸市	岩瀬
	10日 平成 23 年度高知県地球温暖化防止県民会議総会	高知市	岩瀬
	15-27日 南西諸島周辺海域における八放サンゴ類の調査	広島大学「豊潮丸」	今原
	16-20日 平成 23 年度四国の等脚類相調査	富山市科学博物館布村昇氏との共同研究	
	21-22日 リーフチェック in 宍喰	徳島県海陽町(あど未来主催)	岩瀬
	31日 平成 23 年度第 1 回通常理事会	大阪市	
6月	2日 大月町社会福祉協議会役員会	大月町	岩瀬
	4日 NPO 法人環境の杜こうち総会	高知市	岩瀬
	5日 NPO 法人黒潮実感センター理事会・総会	大月町	岩瀬
	6日 平成 23 年度第 1 回通常評議員会	黒潮生物研究所	
	9日-7/4 天皇海山トロール漁場環境等調査	水産庁「開洋丸」	今原
	13日 大月町立大月小学校 1 年生自然学習	黒潮生物研究所前海岸	中地 他
	13日 研究所公開セミナー 「ウミシダ類について」琉球大学 小渕正美氏 「ウミウシ類について」琉球大学 中野理枝氏	黒潮生物研究所	
	15日 光通信開通		
	15日 サンゴ産卵調査開始	研究所地先	目崎
	26日 平成 23 年度第 1 回高知自然学校連絡会	高知市	岩瀬
	29日 愛南町立内海中学校 海学習 1. 事前学習	愛媛県愛南町	中地
7月	4日 土佐清水市立三崎小学校環境学習	土佐清水市	中地
	5日 環境保全講演会「観光地沖縄での漁業の変化と対応 ～地域を巻き込む漁業組合とマリンレジャーの融合は可能か?～」水中カメラマン横井謙典氏	宿毛市(宿毛湾環境保全連絡協議会主催)	岩瀬 他
	6-7日 大月町立大月中学職場体験	黒潮生物研究所	田中・目崎
	7日 愛南町立内海中学校 海学習 2. 調査	愛媛県愛南町	中地
	11日 平成 23 年度足摺宇和海保全連絡協議会総会	宿毛市文教センター	岩瀬 他
	15-28日 高知における造礁サンゴのストレス応答実験 1	台湾中央研究院との共同研究	
	22日 「オニヒトデ駆除マニュアルー酢酸の注射による駆除手法の紹介ー」出版		岩瀬
	23日 竜串サンゴ産卵観察会	土佐清水市(NPO 竜串観光振興会と共催)	中地・目崎
	24日 四万十市立中筋小中学校 PTA 生活研修事業	黒潮生物研究所	中地
	24-27日 マリンバイオ共同推進機構(JAMBIO)公募共同利用・共同研究(課題 No.23-46) 相模湾産刺胞動物の分類学的研究 現地調査	東京大学三崎臨海実験所	今原・岩瀬

	件名	備考(主催者・場所等)	担当
7月 25日	CURRENT Vol. 12 No. 2 発行		編集:中地
29-31日	第10回黒潮生物研究所サマースクール ～きみも小さな研究者～	黒潮生物研究所(主催事業)	中地 他
29-31日	小豆島海岸生物相調査	大阪湾海岸生物研究会 合宿	今原
8月 8日	大月町社会福祉協議会ボランティア体験学習	黒潮生物研究所・福祉施設等	岩瀬
20日	土佐清水市見残しのシコロサンゴ産卵確認	土佐清水市竜串	目崎
21日	竜串サンゴ産卵観察会	土佐清水市(NPO 竜串観光振興会と共催)	中地・目崎
27日	森川海人つながり再発見 2011「海編」	黒潮生物研究所(四十楽舎主催)	田中
28日	高知の自然の情報を残す人をつくる 第2回 サンゴと磯の生きもの	高知大学(四国自然史科学研究センター主催)	岩瀬
30日	研究所前サンゴ産卵調査終了	研究所地先	目崎
31日-10/1	高知における造礁サンゴのストレス応答実験2	台湾中央研究院との共同研究	
9月 10日	Coral & Fish Watching	大月町尻貝・古満目(足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会主催)	岩瀬
12日	研究所1階廊下改装:展示施設新設	公開展示準備	
17-20日	第7回刺胞・有櫛動物研究談話会(NCB)大会	山口県柳井市・周防大島町	岩瀬・今原
26日-10/3	沖縄美ら海水族館前浜ソフトコーラル調査	海洋博覧会記念公園管理財団との共同研究	今原
29日	公益財団法人黒潮生物研究所 最初の評議員選定委員会	高知市	
30日	愛南町立内海中学校 海学習 3. 調査	愛媛県愛南町	中地
10月 3-11日	国立環境研究所 竜串サンゴ調査	国立環境研究所との共同研究	
8日	黒潮生物研究所10周年記念イベント 「歌おう♪さわろう!海の生きもの」	高知市(主催事業)	全員
9日	黒潮生物研究所10周年記念シンポジウム 「ここまでわかった幡多の海 ～黒潮生物研究所10年の取り組み～」	大月町農村環境改善センター(主催事業)	全員
9日	平成23年度第1回臨時理事会・臨時評議員会 合同会議	大月町ホテルバルリーフ	
9日	黒潮生物研究所開所10周年祝賀会	黒潮生物研究所	全員
11日	大月町立大月小学校特別授業 (東京工業大学本川達夫先生)	大月町	中地
22-23日	高知県立のいち動物公園開園20周年記念イベント 「のいちの森の文化祭」	香南市(高知県立のいち動物公園主催)	岩瀬・中地
23日	高知県立のいち動物公園開園20周年記念イベント 「動物公園フォーラム 高知県の自然を守る ～土佐の生物多様性元年を目指して～」	香南市(高知県立のいち動物公園主催)	岩瀬
24-30日	沖縄美ら海水族館前浜ソフトコーラル調査	海洋博覧会記念公園管理財団との共同研究	今原
25日	CURRENT Vol. 12 No. 3 発行		編集:中地
30日	宇和島自然科学教室	愛媛県愛南町	中地
11月 3-7日	第14回日本サンゴ礁学会大会	那覇市	目崎
5日	第5回 竜串リーフチェック講演会	土佐清水市(NPO 竜串観光振興会と共催)	中地

	件名	備考(主催者・場所等)	担当
11月	5-6日 第5回 竜串リーフチェック	土佐清水市(NPO 竜串観光振興会と共催)	中地
	7日 牧野植物園第1回学習プログラム開発委員会	高知市(高知県牧野記念財団事業)	岩瀬
	7-9日 瀬戸内海周辺海域における八放サンゴ類の調査	広島大学「豊潮丸」	今原
	9日 大月町社会福祉協議会役員会	大月町	岩瀬
	11日 高知県立宿毛高等学校環境学習	黒潮生物研究所	中地
	17日 竜串自然再生協議会 幹事会	土佐清水市	岩瀬・中地
	18-22日 第22回日本ウミガメ会議	鹿児島県沖永良部島	岩瀬
	19日 奈半利スポットチェック調査	奈半利町(天然資源活用委員会と共催)	田中・目崎
	19-20日 大阪自然史フェスティバル 2011・リミテッド	大阪市立自然史博物館(NPO 大阪自然史センター等主催)	今原
	20日 手結スポットチェック調査	香南市(YASU 海の駅クラブと共催)	田中・目崎
	22-23日 穴喰スポットチェック調査	徳島県海陽町(あど未来と共催)	田中・目崎
	22日 平成23年度第1回サンゴ確保全行動計画 フォローアップ会議	東京都(環境省)	岩瀬
	25日 牟岐スポットチェック調査	徳島県牟岐町(カイク・ネイチャー・ネットワークと共催)	田中・目崎
	26日 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 移植イベント	大月町尻貝	中地
	30日 愛南町立内海中学校 海学習 4. 発表会	愛媛県愛南町	中地
12月	1日 環境生態系保全活動支援事業 柏島サンゴ移植	大月町柏島	中地
	3日 森川海人つながり再発見 2011「人編」	四万十市(四万十楽舎主催)	田中
	4日 土佐清水産業祭出展: 竜串自然再生の紹介	土佐清水市	岩瀬
	6日 第37回大月町社会福祉大会	大月町(大月町社会福祉協議会主催)	岩瀬
	8日 海洋博研究センター サンゴシンポジウム 2011 「サンゴの移植」	沖縄県本部町(海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター主催)	岩瀬
	10日 第8回棘皮動物研究集会	名古屋市	中地
	10日 牟岐大島オニヒトデ・トゲレイシダマン駆除活動	徳島県牟岐町(カイク・ネイチャー・ネットワーク主催)	岩瀬
	10日 第1回千年サンゴと生きるまちづくりタウンミーティング	徳島県牟岐町(カイク・ネイチャー・ネットワーク主催)	岩瀬
	11日 平成23年度土佐生物学会	高知大学	岩瀬
	12日-1/11 高知における造礁サンゴのストレス応答実験3	台湾中央研究院との共同研究	
	12日 牧野植物園第2回学習プログラム開発委員会	高知市(高知県牧野記念財団事業)	岩瀬
	17日 第2回四国海の守り人交流会	高知市(主催事業)	岩瀬 他
	19日 公開セミナー「内腔類イソギンチャク(カワリギンチャク類)について」内田紘臣博士	黒潮生物研究所	
	21日 竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会	高知市	岩瀬・中地
	22日 大月町社会福祉協議会運営委員会	大月町	岩瀬
	27日 研究所餅搗き	黒潮生物研究所	

	件名	備考(主催者・場所等)	担当	
平成 24	1月 2日-2/12	碧南海浜水族館冬の特別展「サンゴと海」展	愛知県碧南市(展示協力)	岩瀬
	19-20日	四万十高校自然環境コース課外授業	土佐清水市・大月町	中地
	22日	大阪湾海岸生物研究会総会・研究発表会	大阪市	今原
	24-31日	ウミガメと環境・写真と漂着物展 (土佐遊亀会 溝渕幸三氏)	四万十市(展示協力)	田中
	25日	CURRENT Vol. 12 No. 4 発行		編集:中地
	30日	竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門家会議	徳島市	岩瀬
2月	2-3日	自然再生協議会情報連絡会議	静岡市	岩瀬
	6日	第8回竜串自然再生協議会	土佐清水市	岩瀬・中地
	7日	竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会	土佐清水市	岩瀬・中地
	9日	育成藻場実施協議会	宿毛市	岩瀬・田中
	10日	自然体験活動指導者養成研修	四万十市(高知県教委主催)	岩瀬
	11日	研究発表会 はたのおと 2012	四万十市(はた研究会「はたのおと」・四万十市教育委員会主催)	中地
	11日	酢酸注射によるオニヒトデ駆除に関する意見交換会	石垣市	岩瀬
	12日	平成23年度第2回サンゴ礁保全行動計画フォローアップ会議	石垣市(環境省)	岩瀬
	12日	竜串奇岩フェスティバルに出展: 竜串自然再生の紹介	土佐清水市	中地
	17日	もいかくらぶ「間伐材によるアオリイカ産卵床の設置」説明会	土佐清水市(竜串自然再生事業として)	岩瀬・中地
	16-20日	マリンバイオ共同推進機構(JAMBIO)公募共同利用・共同研究(課題 No.23-46)「相模湾産刺胞動物の分類学的研究」現地調査	東京大学三崎臨海実験所	今原
	18日	第1回四国生物多様性会議 in 松山	松山市((四国生物多様性ネットワーク・国際自然保護連合日本委員主催)	岩瀬
	26日	平成23年度第2回高知自然学校連絡会	高知市(高知県教委)	岩瀬
	27日-3/1	沖縄美ら海水族館前浜ソフトコーラル調査	海洋博覧会記念公園管理財団との共同研究	今原
29日	竜串自然再生協議会 幹事会	土佐清水市	岩瀬・中地	
3月	5日	平成23年度モニタリングサイト1000(沿岸域調査)サンゴ礁調査検討会	東京都(環境省)	岩瀬・目崎
	5-6日	造礁サンゴ分類勉強会	東京都	目崎
	7日	平成23年度第2回通常理事会	大阪市	
	7日	平成23年度助成研究発表会	堺市(主催事業)	
	9日	宝石珊瑚国際フォーラム2012 in 高知	高知市(宝石珊瑚保護育成協議会主催)	岩瀬・目崎 今原
	11日	平成23年度第2回通常評議員会	黒潮生物研究所	
	13日	竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会	高知市	岩瀬・中地
	15日	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	徳島県海陽町	岩瀬
	25日	大阪湾海岸生物研究会定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
	29日-5/31	長崎ペンギン水族館 春の特別企画「海のお花畑展」	長崎市(展示協力)	今原
	31日	Kuroshio Biosphere Vol. 8 発行		編集:目崎

事業の内容

1. 調査研究・資料の収集に関する事業

(1) 黒潮生物研究所又は研究所職員が主体となって実施した調査研究

【造礁サンゴ類に関する調査研究】

○四国沿岸の造礁サンゴ類の分布、加入、攪乱状況の調査

平成 16 年度より継続。今年度も東海大学および徳島県牟岐町から愛媛県宇和島市に至る各地で環境活動等を実施している団体等との共同研究で実施した。

足摺宇和海海域を中心にスポットチェック法およびその他の手法を用いて造礁サンゴ類およびサンゴ食生物の分布状況、その他の攪乱要因の状況を記録する。四国における造礁サンゴ群集の状態を記録する最も基本的な資料を作成するための調査であり、長年にわたり継続する。

本調査は環境省のモニタリングサイト 1000 事業、高知県土佐清水市の竜串自然再生事業、徳島県海陽町の竹ヶ島海中公園自然再生事業、宿毛湾環境保全連絡協議会の環境・生態系保全活動、みんなの海を育てる会の環境・生態系保全活動、足摺宇和海保全連絡協議会の環境保全活動、環境省のマリンワーカー事業などの事業等との連携により行われており、調査結果はそれぞれの事業で利用され、又は報告書等に掲載されている。

なお、今年度サボテンミドリイシおよびキュウリイシ類似のクサビライシ科のサンゴを沖ノ島で初めて記録し、これまでに四国全体で 16 科 50 属 138 種の造礁サンゴ類を確認した。

○研究所地先におけるサンゴ類繁殖生態に関する研究

平成 14 年度より継続。造礁サンゴの産卵期に、夜間及び早朝等に潜水して、研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を観察している。今年度は 6 月 15 日～8 月 30 日まで調査を実施した。6 月 28 日に最初の産卵が確認され、日没後の調査では 27 種の産卵を確認した。今年度は初めて産卵が記録されたのは 1 種（ヒラノウサンゴ）で、これまでの 7 年間に産卵が確認されたサンゴは夜間に 7 科 49 種、早朝に 1 科 2 種となった。

なお、昨年度から土佐清水市竜串の見残し湾にある巨大シコロサンゴ（県天然記念物）の産卵観察を計画しており、昨年度は観察できなかったが、今年度は予想した 8 月 20 日の午前 4 時半過ぎから産卵を確認することができた。シコロサンゴは雌雄異体、抱卵放精型のサンゴで、今回は放卵のみが確認された。研究所地先では産卵する月によって同じ群体の雌雄が入れ替わることがあることから、今後も調査を継続し、見残しの大型シコロサンゴの性について調べていきたい。

○サンゴ種苗の開発

平成 10 年度、財団設立準備室の時代から継続している研究。昨年度、大月町水産種苗センターの設備によって種苗育成試験を行ったところ、初期育成については研究所と同様に良好な育成が見られたことから、平成 23 年度は地元の住民による種苗生産技術の習得の試験を、宿毛湾環境保全連絡協議会による環境・生態系保全活動に対する協力事業として実施した。研究所と水産種苗センターの水質の違いなどにより飼育水槽における遮光や流水流量など改善の余地はあるが、初期育成について一応の成果を上げた。一方で中間育成は、橘浦及び古満目沖はフジツボなどが多く不向きであることがわかったため、筏の設置適地の探索が必要。

また、中間育成筏における着生板の設置方法を改良した。着生板にあたる光量を増やすため着生板を水平に配置し、藻類等の影響が軽減されるように隣り合った着生板を 90°の角度で配置した。結果は平成 24 年夏の中間育成終了時に判明する。

○海水の濁り・浮泥の堆積がサンゴに与える影響に関する研究

平成 22 年度から継続。土砂や赤土による海水の濁りがサンゴの生息にどのような影響を与えているかについて、実験的手法によって濁りの程度がサンゴの成育にあたえる影響の強さを検討することを目的としている。

今年度は実験用のサンゴピースを作成し、予備的に PAM を用いて測定値の安定性について検討した。PAM の測定値は測定距離を一定にすると比較的どのピースでも値は安定するが、ピースによっては大きく値がずれるものがあった。また、暗順応させない場合とさせた場合では、最大値の値が多少変化するが、PAM 値の低下など相対値を見る場合には、どちらの場合でも傾向は似ていた。

濁質を用いた実験を開始する前に飼育水槽の問題により実験用のサンゴピースが斃死し、本実験は実施できなかった。

○造礁サンゴ類の分類に関する研究

平成 20 年度から継続している「日本造礁サンゴ分類研究会」において国内外の研究者と連携し、黒潮生物研究所で得られる四国の造礁サンゴの産卵生態に関する知見や交配実験結果、骨格や組織の微細構造などの情報と、他の研究機関等から得られる分布の情報や DNA 解析結果などを総合的に検討して、造礁サンゴ類の分類について再検討を行っている。

平成 23 年度は野外での造礁サンゴの産卵観察から得られた産卵時期、時刻、卵塊セットの様子、卵塊、卵、卵塊放出の特徴などをまとめ、種分類の情報として用いることができるかどうかを検討した。その結果、産卵情報だけで種を特徴づけることは難しいが、他の分類形質と産卵情報を組み合わせることで種や属を特徴づけることができる可能性があることがわかった。今後は種による産卵情報の違いがどのような要因によって発現するのかについて調べていきたい。

【造礁サンゴ類と藻類の関係に関する調査研究】

○造礁サンゴ類および海藻類の分布の変遷に関する研究

平成 20 年度から継続。南日本の太平洋岸を中心に、海水温の上昇に起因すると思われる造礁サンゴ類や海藻類の分布の変化が各地で報告されている。そこで、四国太平洋岸で過去に造礁サンゴ類および海藻類の分布に関する調査記録のある海域において、その分布状況にどのように変化しているのかを明らかにする目的で再調査を行い、造礁サンゴ類および海藻類の分布状況を比較することにより、変化の詳細について検討している。

今年度は香南市夜須町の、過去にカジメ海中林が分布していた地点及び周辺において調査を実施した。その結果、現在海中林は消滅して高被度な造礁サンゴ群集に変化しており、造礁サンゴ類の種組成も変化していることが明らかになった。本研究は高知大学黒潮圏総合科学専攻等との協力関係のもとで実施している。

○藻場とサンゴ群集の相互関係に関する研究

これまで行ってきた研究の結果、近年高知県沿岸では藻場の構成種や生育量が大きく変化しており、造礁サンゴ類の分布状況にも変化が見られることが明らかになり、これらの原因として海水温の上昇が関係していることが示唆されている。一般に底生藻類と造礁サンゴ類は定着基質を巡って競争関係にあるといわれているが、両者の競争関係の詳細について検討した研究はほとんど見られない。そこで両者の分布と繁殖に着目して、どのような相互関係があるかについて詳細な検討を開始した。

今年度はその第一歩として、熱帯種優占ホンダワラ藻場と温帯種優占ホンダワラ藻場において、藻類と造礁サンゴ類の分布様式について調査をおこなった。その結果、熱帯種優占ホンダワラ藻場と温帯種優占ホンダワラ藻場では、出現するホンダワラ類、造礁サンゴ類ともに種組成や垂直分布パターンにも違いが見られ、基質を巡って競争関係にあると考えられ、今後詳細な検討を加える種をホンダワラ類および造礁サンゴ類について選定することができ

た。また、藻場の中に定着板を設置して、造礁サンゴ類の着生量を調査した結果、藻場の中でも造礁サンゴ類の着生が見られることがわかった。これらの結果に基づいて今後も調査を継続し、検討を継続する予定。

【海藻・海草類に関する調査研究】

○熱帯種・温帯種ホンダワラ類の季節変化に関する研究

宿毛湾藻津の熱帯性ホンダワラ類と温帯性ホンダワラ類が混生する藻場において、各種の季節消長に関する調査を行った。調査は4月から8月までの期間、構成種の水平・垂直分布の詳細および各種の生育状態を記録した。

その結果、温帯種はマメタワラ、ヒジキ、イソモク、熱帯種はフタエモク、キレバモク、マジリモクの計6種の生息が確認され、各種の消長パターンには違いがあることが明らかになった。ホンダワラ類の生育には年変動があり、また現在高知県では、温帯性種が衰退し熱帯性種が勢力を拡大していることから、各種の分布や季節変動は変化していくことが予想されるため、来年度以降も引き続き調査を継続していく予定。高知県水産試験場との共同研究。

【その他の動植物に関する調査研究】

○「相模湾産八放サンゴ類」出版準備

国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館（御研究所昭和天皇所蔵標本を収蔵）の収蔵標本、東京大学総合博物館収蔵標本、国立科学博物館相模灘調査（平成15～18年）採集標本、黒潮生物研究所収蔵標本などをもとに、平成24年度に「相模湾産八放サンゴ類」を出版する計画があり、執筆を担当するため、これらの標本について分類学的な検討を加えている。

また、今年度はマリンバイオ共同推進機構（JAMBIO：事務局東京大学三崎臨海実験所、筑波大学下田臨海実験所）の公募型共同研究における、三崎臨海実験所周辺海域での刺胞動物相調査を7月24～28日、1月16～20日に実施し、相模湾及び周辺海域における八放サンゴ相の補完的な情報を収集した。

○四国沿岸の棘皮動物相に関する研究

足摺宇和海海域の水深30m以浅の範囲における潜水採集、および宝石珊瑚漁によって水深90～120mの岩礁域から混獲される棘皮動物を中心に収集整理した。

今年度末までに、ヒトデ綱75種（浅海域35種・中深度域40種）、クモヒトデ綱50種（浅海域24種・中深度域14種）、ウニ綱38種（浅海域24種・中深度域14種）、ナマコ綱（浅海域30種）、棘皮動物門全体で193種が記録された（観察記録、または写真による記録のみで標本が得られていないものも含む：ウミユリ綱は未検討）。いずれの分類群においても南方系種の占める割合が強く、これまで奄美以南、あるいは沖縄以南が分布域と考えられていた種が多数出現した。また、珊瑚綱混獲種には日本沿岸における稀種や初記録種が多く見いだされた。今後も棘皮動物全般について標本の収集につとめ、共同研究などにより詳細な分類学的検討も実施する予定。

○四国沿岸におけるオニヒトデの分布状況の時空間的変化および個体群動態に関する研究

四国沿岸におけるオニヒトデの分布状況の変化が造礁サンゴ類の分布状況に与える影響を明らかにするため、引き続き、既存資料調査、現地調査、聞き取り調査等を行い、広域的な情報を収集・整理した。この研究の一部は環境省の平成23年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）、平成23年度環境生態系保全活動モニタリング調査及び進行管理委託業務の一環として行われており、それぞれの業務報告書に調査結果がまとめられるとともに、各海域での駆除計画の立案と実施に際して得られた情報が活用された。

○足摺宇和海海域におけるウミウシ相調査

琉球大学の大学院に所属の中野理枝氏との共同研究として平成22年度から2年計画で実施した調査。今年度は6月に補完的な現地調査を実施し、昨年度の調査結果とあわせて、研究

所周辺海域において 145 種の後鰓類が生息していることが明らかになった。これらの結果は Kuroshio Biosphere に投稿論文として掲載した。

○四国における海産等脚類相調査

富山市立博物館の布村昇氏との共同研究として四国の海産等脚類について 3 年間の予定で調査を計画し、初年度として実施した。今年度は 5 月に第 1 回の調査を実施した。調査結果は最終年度である平成 25 年度に Kuroshio Biosphere に投稿論文として掲載予定。

(2) 研究協力・共同研究等

黒潮生物研究財団以外の組織・団体・個人等からの協力依頼、共同研究の申し込みなどにより、協力して実施し、又は共同研究として実施した調査研究。

○東海大学 海洋学部 水産学科との共同研究

平成 16 年度から継続。横地研究室からの学生を受け入れ、足摺宇和海海域においてスポットチェック法およびその他の手法を用いて造礁サンゴ類およびサンゴ食生物の分布状況、加入の状況、攪乱要因の状況などの記録を継続している。静岡県、和歌山県にも調査サイトがあり、非サンゴ礁域における造礁サンゴ群集の動態の把握を目指している。

○東海大学 海洋学部 海洋生物学科との共同研究

平成 20 年度から継続。赤川研究室からの学生を受け入れ、ハナハゼの生態に関する研究を継続している。

○日本ウミガメ協議会付属黒島研究所との共同研究

平成 17 年度から継続。八重山群島黒島周辺のサンゴの生育状況等を知るため、スポットチェック法による調査を継続実施した。前年度と比較してサンゴが回復している地点が見られた一方で、キャングチなど一部地点では被度が低下していた。日本における造礁サンゴ類の最大の分布域において 30 年以上のデータの蓄積のある黒島研究所においてデータの継続性を維持することには高い価値があり、今後も協力していく予定。

○高知大学 大学院総合人間自然科学研究科 黒潮圏総合科学専攻との共同研究

高知大学において造礁サンゴ類関係の研究を実施している黒潮圏総合科学専攻に対し、造礁サンゴ類の卵及び胚の提供、褐虫藻分析のためのサンゴ片の提供など、材料の提供などを平成 17 年度頃から継続的に行っている。また、海洋温暖化関連の研究として、サンゴ類分布状況に関する過去の記録がある地点において再調査を行い、変化を記録し、変化の内容について検討を加える研究を計画実施した。今年度は、高知大学からの請負業務「高知県香南市夜須町大手の浜周辺海域の造礁サンゴ群集の変遷に関する調査業務」として実施した。

○台湾中央研究院との共同研究

非サンゴ礁域、北限域の造礁サンゴ類分布地として、平成 20 年度から台湾中央研究院と様々な共同研究を継続的に行っている。今年度は、「白化からの回復における褐虫藻とサンゴの関係」に関する実験を 5 月、9 月、1 月に実施し、また、「スギノキミドリイシ表面に生息する細菌の季節変動の研究」において 2 ヶ月に 1 回の海水とサンゴ片の採集を実施したほか、新たな研究計画策定に向けて来訪研究者への便宜の提供等を行った。

○海洋博覧会記念公園管理財団との共同研究

今年度、共同研究契約を交わし、新たに開始した共同研究。沖縄美ら海水族館前の海域におけるソフトコーラル類相の調査。「平成 23 年度ウミトサカ類生物相調査における標本収集および同定業務」として委託をうけ、9-10 月、2-3 月に現地調査を実施し、採集品の同定等を実施した。3 年計画の予定。

○国立環境研究所との共同研究

今年度、国立環境研究所と「温暖化影響評価のための海洋モニタリングに関する共同研究」について共同研究契約を締結し、協力体制の元で研究を実施することになった。具体的な内

容としては、土佐清水市竜串で国立環境研究所が実施している造礁サンゴ類のモニタリングについて、研究計画策定への参画、情報の提供などを実施した。5年計画の予定。

○近畿大学 農学部 環境管理学科 環境化学研究室との共同研究

平成21年度から継続。同研究室との共同研究として「海洋生物からの新規カロテノイド化合物の探索に関する研究」を継続的に実施している。今年度は、昨年度に引き続き学生を受け入れて近隣海域に生息している八放サンゴ類、棘皮動物など分析に供する生物種の選定、サンプルの採取、提供などについて協力した。

○琉球大学 広瀬慎美子博士への研究協力

イシサンゴに穿孔するルリツボムシ（蔓脚下綱；尖胸上目）の遺伝的研究において、ルリツボムシの入ったベルベットサンゴを提供した。

○琉球大学 James Davis Reimer 博士への研究協力

カワギンチャク類の分布状況と繁殖に関する研究において、高緯度分布地として研究所周辺海域において定期的にサンプルを採集し提供した。

○慶應義塾大学 大久保奈弥博士への研究協力

サンゴの原腸形成期の開始時期の研究において、シコロサンゴの胚を採集して提供した。

○東海大学 斎藤俊郎博士への研究協力

高緯度地域におけるツムギハゼの分布状況と毒性の研究について、高知県西南部における調査やサンプリングに協力した。

○国立科学博物館 動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ 齋藤 寛博士への研究協力

軟体動物溝腹綱（カセミミズ類）の系統分類に関する研究において、珊瑚網で混獲されるカセミミズ類の採集と提供をおこなった。

○北海道大学 広瀬雅人博士への研究協力

四国黒潮流域における大型コケムシ群集の多様性と群集構造の変化に関する研究において、珊瑚網で混獲されるコケムシ類の採集と提供をおこなった。

2. 調査研究の援助・資料の利用に関する事業

(1) 研究助成事業

平成 17 年度に始まった研究助成事業は 6 年目になり、これまでに 31 人の大学生・大学院生に助成を行ってきた。平成 23 年度についても、卒研、修研、博研の研究内容を検討する時期に合わせ、2 月 8 日から下記要領にしたがって募集を行った。

- 応募資格：卒研究生、大学院生、その他の研究者
- 助成内容：研究費の補助
- 助成規模：1 件あたり 20 万円以内／5 件程度
- 応募要領：在学生は指導教官の推薦書必要。一般は他薦の推薦書必要。
- 選考方法：当財団理事／評議員に回覧し、点数制で順位を決め、上位から 5 件を選考。
- 助成研究成果の公表：財団所定の様式により、研究の概要について報告書を提出。報告書はホームページ等で公表。また、財団主催の講演会で研究成果を発表してもらう。
- 助成者決定時期：4 月上旬
- 助成時期：平成 23 年 4 月から助成期間 1～3 年

今年度は 11 件の応募があり、規定により財団理事と評議員の投票によって選考した結果、以下の 5 件について助成を実施することとした。

- ・ 許 晃 (日本大学) 助成期間：2 年
「黒潮による磯辺の生物相への影響」
- ・ 袖山文彰 (東京大学 大学院) 助成期間：2 年
「トゲバネウミシダの地理的分布と遺伝的多様性」
- ・ 寺岡孝晃 (東北大学 大学院) 助成期間 2 年
「温帯域における造礁サンゴ群集の代謝」
- ・ 須藤耕佑 (千葉大学 大学院) 助成期間：2 年
「四国黒潮流域におけるウミウシ類とその寄生虫の多様性」
- ・ 岡本 慶 (東京大学 大学院) 助成期間：1 年
「黒潮流域で発見された *Chelonia* sp. と *C. agassizii* の形態比較」

また、選外となった 6 件の研究の中に、東日本大震災により研究環境に多大の被害を被った北里大学三陸キャンパスの大学院生から下記の応募があったため、研究の継続を援助する目的で、震災特別枠として追加の助成を実施した。

- ・ 戸篠 祥 (北里大学 大学院) 助成期間：1 年
「ヒクラゲのシスト形成の解明」

なお、助成研究の成果については、財団ホームページ上で公表しているほか、毎年 2～3 月にステラケミファ株式会社の施設内において成果の発表会を実施している。今年度は平成 24 年 3 月 7 日に、助成期間を終了した、

- ・ 岡本 慶 (東京大学 大学院)
「黒潮流域で発見された *Chelonia* sp. と *C. agassizii* の形態比較」
- ・ 戸篠 祥 (北里大学 大学院)

「ヒクラゲのシスト形成の解明」

の2件の助成研究について、財団理事、評議員、研究員の他、ステラケミファ株式会社研究部、検査部の社員等、あわせて20人あまりの出席を得て大阪府堺市のステラケミファ株式会社三宅工場内会議室において研究結果の発表会を行った。

(2) 東日本大震災で被害を受けた研究者・学生に対する支援

平成23年3月に発生した東日本大震災に対して、震災発生直後から各地の研究機関における被害状況などの情報収集に努め、どのような支援ができるのかを検討した結果、大学等の研究施設は被害を免れていても、ライフラインの途絶や居住地の被害などにより、研究環境を失った研究者や学生が多数存在することがわかった。

そこで当財団としては、東日本大震災により研究環境に被害を受けた方々から研究所の施設利用の申出があった場合、タンクのエアチャージや薬品類などの消耗品代を除き、宿泊を含む利用料を無料とすることとし、4月8日に公表した。その結果、東北大学の教員・大学院生・大学生、計3名29人日の利用があった。

また、前項の研究助成において震災特別枠として1件の追加助成を実施した。

(3) 研究所利用者の受け入れ

下記のとおり調査研究目的の研究所利用者があった。

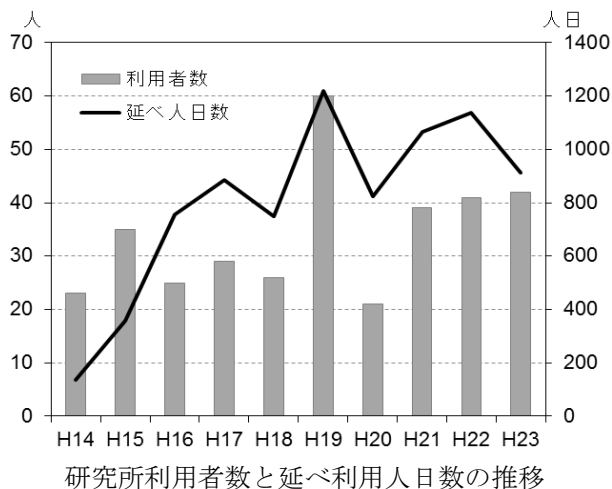
研究所利用状況				研究所利用者の所属別人数				
研究職	10	人	延べ	122	人日	東北大学	3	人
大学教員	8	人	延べ	31	人日	千葉大学	1	人
Post Doctor	5	人	延べ	64	人日	東京工業大学	1	人
大学院生	4	人	延べ	22	人日	東海大学	7	人
大学生	14	人	延べ	663	人日	名古屋大学	1	人
一般社会人	1	人	延べ	9	人日	京都大学	1	人
合計	42	人	延べ	911	人日	近畿大学	4	人
						広島大学	4	人
						琉球大学	3	人
						国内博物館・水族館等	4	人
						その他国内	1	人
						海外	12	人
						合計	42	人

平成23年度の研究所の利用者数は911人日で、平成21、22年度に比べて若干減少したものの、引き続き1,000人日に近い多数の利用があった。

長期滞在者としては東海大学海洋学部の4年生3人が半年以上滞在して卒論研究をおこなった他、東海大学の別の学科の4年生2人が42～64日滞在してやはり卒業研究を行った。また、台湾中央研究院の研究員1人が2度合計64日滞在して実験を行った。

利用者の所属の内訳は、右表のとおりで、北は東北大学、南は琉球大学まで9大学の25人、および大学以外に所属する17人の方々によって利用された。その中には台湾中央研究院に所属する海外の研究者12人が含まれている。

研究所利用者数と述べ利用人日数の推移を右図に示す。利用者数は平成 21 年頃から 40 人前後、述べ利用人日数は研究所が本格的に運用をはじめて 3 年目の平成 16 年度以降 800～1200 人日程度で推移しており、特に造礁サンゴ類の産卵時期である 7～8 月には宿泊希望者の受入を断ることが多くなっており、宿泊施設の拡大が必要である。



(4) 宿泊棟の建設および研究所の改装

研究所の利用者は造礁サンゴ類の産卵期である夏季7月から8月を中心に例年 1000 人日前後の状況が続いている。利用者が集中する時期には外来研究者のための宿泊施設や研究スペースなどが慢性的に不足し、利用者に不便を強いてきた。そのため研究所の近くに新たに宿泊棟を建設し、外来研究者の利用の便を図ることとし、平成 23 年度内着工を目指して建設用地の選定、土地賃貸借契約の準備、宿泊棟の設計等を実施したが着工には至らなかった。着工は平成 24 年 4 月の予定。

宿泊棟は、鉄骨 2 階建。2 階には和室 10 畳、8 畳、洋室 4 人部屋、個室 2 室の宿泊室の他、調理場、食堂、洗面、トイレなど宿泊者の生活に必要な設備の他、これまで確保に苦勞してきた有期研究員用の住居を設ける。1 階にはサマースクール等で使用するキャンプ用品や水槽設備の予備を収納する倉庫、ホルマリンやアルコールなどを扱う換気の良い標本処理室、野外活動後に多人数が使用できるシャワーやトイレ、宿泊者用の風呂や洗濯室などを設け、研究所利用者の便宜を図る。

宿泊棟完成後は研究所の宿泊室や食堂などが不要になるため、研究室として改装整備する予定。

3. 環境の保全に資する事業

(1) サンゴ群集の保全のためのオニヒトデ駆除

平成 16 年頃から足摺海域で大発生状態となっているオニヒトデは、大発生域が平成 22 年度には徳島県牟岐町から愛媛県愛南町にいたる四国太平洋岸のほぼ全域に拡大し、各地で造礁サンゴ群集の被度の明らかな減少が見られるようになってきている。オニヒトデは広範囲に多量に生息しており、人為的にこの個体群をコントロールすることは現実的ではないため、各地で地域経済や教育上の資源として利用されているサンゴ群集や学術的価値の高いサンゴ群集、自然公園として景観保全上重要なサンゴ群集などの存続を図る目的で、より効果的なオニヒトデの駆除事業が行われるように計画・指導を継続した。

今年度は、土佐清水市、大月町、宿毛市の海域について「平成 23 年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）」（環境省中国四国地方環境事務所）、「環境生態系保全活動（宿毛湾環境保全連絡協議会：宿毛市・大月町）」、「環境生態系保全活動（みんなの海を育てる会：土佐清水市）」（どちらも水産庁交付金事業）により資金を得て、財団の主導により駆除活動を実施した。駆除手法としては従来の採捕・陸上処分の方法以外に、昨年度確立した酢酸注射による駆除も実施した。オニヒトデの駆除個体数は 3000 個体あまりと前年度に比べて半減し、駆除海域における分布密度を低く抑えることができるようになってきた。

また、四国各地で様々な団体が主体となって実施されている駆除活動においても、技術の指導、管理運営計画への助言等を行った。

(2) 自然再生事業などへの協力

○竜串自然再生協議会

協議会設立以前の平成 13 年度から関連した調査研究を継続。高知県土佐清水市竜串湾の衰退したサンゴ群集の再生により、竜串湾の豊かな生態系を取り戻すことを目指す取り組み。岩瀬は平成 22 年度に協議会会長に就任し、中地と共に幹事会委員として協議会の牽引役を担っている。また、財団は例年環境省からサンゴの生育状況調査をはじめとする海域調査業務を請け負っており、今年度も「平成 23 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務」を請け負い、調査を実施した。なお、竜串自然再生協議会委員として、今年度は他に以下の事業等を実施し、又は協力した。



- 7月 4日 土佐清水市立三崎小学校環境学習
- 23日 竜串サンゴ産卵観察会(NPO 竜串観光振興会と共催)
- 8月 21日 竜串サンゴ産卵観察会(NPO 竜串観光振興会と共催)
- 11月 5日 第5回 竜串リーフチェック講演会(NPO 竜串観光振興会と共催)
- 5-6日 第5回 竜串リーフチェック(NPO 竜串観光振興会と共催)
- 17日 竜串自然再生協議会 幹事会
- 12月 4日 土佐清水産業祭出展：竜串自然再生の紹介
- 21日 竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会
- 1月 19-20日 四万十高校自然環境コース課外授業

- 2月6日 第8回竜串自然再生協議会
- 7日 竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会
- 12日 竜串奇岩フェスティバルに出展：竜串自然再生の紹介
- 17日 もいかくらぶ「間伐材によるアオリイカ産卵床の設置」説明会
- 3月13日 竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会

○竹ヶ島海中公園自然再生協議会

平成17年度から継続。徳島県海陽町竹ヶ島海中公園地区のシンボルである美しい緑色のエダミドリイシが衰退し、内湾性の強いカワラサンゴに置き換わっていることから、海域の環境を元に戻すことにより、かつてのような豊かで美しい生態系を取り戻そうとする自然再生の取り組み。岩瀬が専門委員、研究所が協議会委員として参加。徳島県から委託を受けているコンサルタント会社から海域調査業務の一部を再委託されている。



なお、竜串自然再生協議会委員として、今年度は他に以下の事業等を実施し、又は協力した。

- 5月21-22日 リーフチェック in 穴喰（NPO あど未来主催）
- 11月22日 エダミドリイシ・カワラサンゴ入れ替え移植実験 データ収集
- 11月22-23日 穴喰スポットチェック調査（NPO あど未来と共催）
- 1月30日 竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門家会議
- 2月29日 サンゴ移植可能空き地調査
- 3月15日 竹ヶ島海中公園自然再生協議会

○足摺宇和海保全連絡協議会

平成20年6月に研究所の主導で設立した足摺宇和海保全連絡協議会（会長：岩瀬文人，事務局：黒潮生物研究所及び土佐清水自然保護官事務所）は、「足摺宇和海国立公園及び周辺の海域において、環境保全に資する活動を行っている多様な主体の連携を推進し、活動を支援することによって、科学的知見と社会的合意に基づく効果的な環境保全活動や、賢明で持続可能な利用の推進が図られ、もって豊かで多様な沿岸生態系が将来にわたって維持・保全されることを目的」として、主にメーリングリストを利用して(1)会員相互の情報の共有、(2)会員の活動に必要な教育・啓蒙、(3)会員の活動に必要な相互扶助、(4)その他協議会の目的を達成するために必要な活動、を行っている。今年度も7月11日に定例情報交換会を開催し、サンゴ食害生物の分布状況、駆除計画等について意見を交換し、周年にわたりメーリングリストを管理運営して情報共有を図った。



○橘浦におけるヒロメ藻場の増殖への協力

平成20年度から継続。大月町橘浦における磯焼け対策として、近隣で少量の生育が確認されていた有用海藻であるヒロメを増殖させ、町興しにつなげる活動。試験区を設けて当該海域に非常に高密度に生息していたウニ類の生息密度をコントロールすることによって海藻類の生育量を増加させることができることが確認され、この試験区に移植・播種されたヒロメが増殖することも確認された。今後は規模を拡大し、試験規模から事業規模に拡大することを検討している。橘浦藻場再生実行委員会の一員として参加。

○徳島県牟岐町における「千年サンゴ」保全活動への協力

徳島県牟岐町の大島にある「千年サンゴ」と呼ばれる巨大なコブハマサンゴの保全活動に

協力。平成 21 年頃から周辺海域でオニヒトデによる食害が発見されて駆除活動が行われており、平成 23 年にはトゲレイシダマシによる千年サンゴへの食害が発見され、やはり駆除活動が行われている。これらの活動は地元ダイビングショップやNPO法人により実施されており、当財団は「千年サンゴ」を中心としたサンゴ群集保全のため、食害生物に関する知識や駆除に関する情報の提供やバックグラウンドとしてのサンゴ等に関する知識の提供を行ってきた。今年度は 12 月の駆除活動に参加し、同日開催された「千年サンゴと生きるまちづくりタウンミーティング」でサンゴという生き物についての理解を深める目的で講演を行った。

○香南市夜須のサンゴ群集保全への協力

香南市夜須町で活動している NPO 法人 YASU 海の駅クラブが実施している夜須町大手の浜周辺のサンゴ群集モニタリング指導や流入河川の水質調査結果についての助言などを行った。

○造礁サンゴ移植事業への協力

11 月 26 日に足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会が実施したサンゴ移植イベント、および 12 月 1 日に宿毛湾環境保全連絡協議会が環境生態系保全活動支援事業として実施したサンゴ移植について、移植用種苗の供給や移植手法の指導などを行った。

○海域への施肥による藻場育成の試みへの協力

高知県内で有機廃棄物の堆肥化を行っている企業が中心となって、すくも湾漁協、橘浦漁協、藻津漁協、高知工科大、宿毛市、大月町、その他 NPO などに呼びかけて発足した任意団体「育成藻場実施協議会」が、海域に施肥することで藻場を育成する実験について、実証試験計画などについて助言をおこなった。

4. 教育啓蒙・普及啓発に関する事業

(1) 博物館登録への準備

平成 22 年度から黒潮生物研究所を博物館登録する準備を進めており、これまでに飼育水槽室の整備が終わっていた。今年度は研究所 1 階廊下に 4 基の展示ケースを配置して標本等の資料展示を開始し、同じく廊下の壁面を利用してパネル展示設備を整備し、展示を開始した。

高知県教育委員会との協議により、登録申請は実質的な博物館活動を継続しながら公益認定申請が終了した後に行うことにしている。

(2) イベント等の開催

【主催・共催事業】

○第 10 回黒潮生物研究所サマースクール

例年通り幡多・南予地方の小学生 40 人を定員に、夏休み期間中に 2 泊 3 日のサマースクールを開催した。

期 日：2011 年 7 月 29-31 日

主 催：黒潮生物研究所・大月町教育委員会

後 援：大月町・高知県・高知県教育委員会・愛媛県教育委員会

場 所：黒潮生物研究所およびその周辺（高知県幡多郡大月町西泊）

内 容：磯の生き物観察、自然物を使った工作などの様々なプログラムを通じて自然体験を行う 2 泊 3 日のキャンプ（参加費 3000 円）

対 象：幡多・南予の小学校 4～6 年生 参加者 36 人

○黒潮生物研究所 10 周年記念イベント「歌おう♪さわろう！海の生きもの」

研究所発足 10 周年を記念して、これまであまり活動をしてこなかった高知県の都市部住民に、身近な海の生きものの世界を紹介することを目的として、東京工業大学の本川達雄 教授、京都大学の久保田 信 准教授においていただき、歌あり、お話あり、体験コーナーありの楽しいイベントを実施した。

期 日：平成 23 年 10 月 8 日

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

後 援：環境省中国四国地方環境事務所・高知県・高知県教育委員会・高知市教育委員会・高知新聞社・RKC 高知放送・NHK 高知放送局・KUTV テレビ高知・KSS 高知さんさんテレビ・宝石珊瑚保護育成協議会

場 所：高知市 高知県立県民文化ホール「グリーンホール」

内 容：ステージ上で開催された著名な海洋生物学者による楽しくてためになる講演会と、ロビーで開催された海の生きものやその殻・骨などを用いた体験コーナー。

参加者：一般 約 130 人



○黒潮生物研究所 10 周年記念シンポジウム

「ここまでわかった幡多の海」～黒潮生物研究所 10 年の取り組み～

研究所発足 10 周年記念事業のふたつ目として、これまでお世話になって来た大月町を中心とする地元の方々に、研究所がこれまで行ってきた研究内容とその成果を紹介するシンポジウムを開催した。

期 日：平成 23 年 10 月 9 日

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

後 援：高知県・大月町・大月町教育委員会・宿毛市・三原村・土佐清水市・藻津漁業協同組合・すくも湾漁業協同組合・橘浦漁業協同組合

場 所：大月町農村環境改善センター

内 容：研究所研究員 4 名による講演

「ところ変わればサンゴも違う!?—サンゴの分布と産卵—」研究員目崎拓真

「あの藻場はどこに行った?—移り変わる高知の海藻—」研究員田中幸記

「サンゴの一生を見てみたい—サンゴ種苗生産の取り組み—」研究所長岩瀬文人

「海に親しみ海を見守る—教育と保全の取り組み—」主任研究員中地シュウ

のあと、参加者による意見交換を行った

参加者：一般 約 110 人

○第 2 回四国海の守人交流会

平成 22 年 12 月にはじめて開催した、四国太平洋岸で環境活動等を行っている団体の交流会「四国海の守人交流会」は大変好評だった。参加者から今後も継続的な交流会の開催を望む声が多かったため、今年度はこの交流会を毎年の恒例行事とすることを念頭において企画・開催した。

期 日：平成 23 年 12 月 17 日

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

後 援：環境省中国四国地方環境事務所・高知県

場 所：高知市文化プラザかるぼーと 11 階 中央公民館大講義室

内 容：基調講演「自然保護は趣味か。また、パンダは守るべきか。」

内田紘臣氏（串本海中公園センター名誉館長）

参加者による 7 題の講演、参加者全員による意見交換会、懇親会

参加者：四国の海で環境活動を実施している人々 約 40 人

○黒潮生物研究所公開セミナー

・第 1 回セミナー

期 日：平成 23 年 6 月 13 日

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

場 所：黒潮生物研究所

内 容：「ウミシダ類について」琉球大学 小淵正美氏
「ウミウシ類について」琉球大学 中野理枝氏

参加者：研究所職員・研究所滞在者・一般 約 15 人

・第 2 回セミナー

期 日：平成 23 年 12 月 19 日

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

場 所：黒潮生物研究所



内 容：「内腔類イソギンチャク(カワリギンチャク類)について」 内田紘臣博士
参加者：研究所職員・一般 8人

○第五回竜串リーフチェック（平成19年より継続）

期 日：平成23年11月5-6日
共 催：財団法人黒潮生物研究財団・NPO 竜串観光振興会
場 所：高知県土佐清水市竜串海域
内 容：中地がチームサイエンティストとして参加
リーフチェック法によるサンゴ礁健康度調査の指導・実施
参加者：一般ダイバーおよび関係者 14人

○第五回竜串リーフチェック講演会

期 日：平成23年11月5日
共 催：財団法人黒潮生物研究財団・NPO 竜串観光振興会
場 所：土佐清水市三崎 ふれあいセンター
内 容：「竜串周辺の海の生き物と環境①サンゴは泳ぐし、けんかもする」
「竜串周辺の海の生き物と環境②あなたの知らない!?無脊椎動物の世界
(棘皮動物を中心に)」以上2題 黒潮生物研究所 中地
「竜串の魚類相調査の結果から分かること」黒潮実感センター 神田氏
「竜串におけるサンゴ保全活動の紹介」竜串観光振興会 浜口氏
参加者：リーフチェック参加者および地域住民、計20人

○竜串サンゴ産卵観察会

期 日：平成23年7月23日、8月21日
共 催：財団法人黒潮生物研究財団・NPO 竜串観光振興会
場 所：土佐清水市竜串 海のギャラリー・爪白海岸地先
内 容：平成20年からの継続イベント。一般参加者を対象としたサンゴの繁殖生態に関する勉強会と、夜間ダイビングによるイシサンゴ類の産卵の観察
参加者：7月8人、8月7人

【協力事業】

○リーフチェック in 宍喰（平成18年より継続）

期 日：平成23年5月21-22日
主 催：NPO 法人あど未来・竹ヶ島海中公園自然再生協議会
場 所：徳島県海陽町竹ヶ島海域
内 容：岩瀬がチームサイエンティストとして参加。リーフチェック法によるサンゴ礁健康度調査の指導・実施

○環境保全講演会 観光地沖縄での漁業の変化と対応

～地域を巻き込む漁業組合とマリンレジャーの融合は可能か？～

期 日：平成23年7月5日
主 催：宿毛湾環境保全連絡協議会
内 容：宿毛湾環境保全連絡協議会の活動の一環として開催された水中カメラマンの横井謙典氏による講演会。企画立案、講師の紹介、打合せなど協力

○森・川・海・人 つながり再発見！ 2011

主 催：社団法人西土佐環境・文化センター四万十楽舎
内 容：公益社団法人高知県森と緑の会が高知県の森林環境税公募事業「こうち山の日推進事業」として補助金を出して実施したイベント。「海編」「川編」「森編」「人編」からなる。小学生を対象に、森川海における各専門家と一緒に活動し、自然の中の生き物や植物など、暮らしとのつながりを学び、そのおもしろさを再発見する。「海編」と「人

編」で講師として参加協力

「海編」

期 日：平成 23 年 8 月 27 日
場 所：黒潮生物研究所及び地先海域
内 容：磯遊び・磯野生き物探し・海の話 など

「人編」

期 日：平成 23 年 12 月 3 日
場 所：四万十市 四万十楽舎
内 容：薪を使った海川山料理&クラフト体験

○高知の自然の情報を残す人をつくる 第 2 回「サンゴと磯の生きもの」

期 日：平成 23 年 8 月 28 日
主 催：NPO 法人四国自然史科学研究センター
場 所：高知大学理学部 1 号館
内 容：四国自然史科学研究センターが、「高知の自然の情報を残す人をつくる」と題して、5 回シリーズで開催した記録の証拠となる生物標本をつくる講座の第 2 回。に講師として参加協力。内容はサンゴの骨格標本作製法、クモヒトデ・ナマコ・イソギンチャクなど磯の生きものの麻酔及び固定法の講習。

○第 21 回コーラル&フィッシュウォッチング

期 日：平成 23 年 9 月 10 日
主 催：足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会
場 所：大月エコロジーキャンプ場～古満目シコロサンゴ群生地
内 容：スノーケリング講習及び海中の観察、参加者とパークボランティアとの懇親会

○高知県立のいち動物公園開園 20 周年記念イベント「のいちの森の文化祭」

期 日：平成 23 年 10 月 22-23 日
主 催：高知県立のいち動物公園
場 所：香南市 高知県立のいち動物公園 ピクニック広場
内 容：テント出展（黒潮生物研究所の活動紹介、サンゴや海の生きもののタッチングプール、サンゴのスタンプ、サンゴ占いなど）

・「動物公園フォーラム」高知県の自然を守る～土佐の生物多様性元年を目指して～

期 日：平成 23 年 10 月 23 日
主 催：高知県立のいち動物公園
場 所：香南市 高知県立のいち動物公園 動物科学館 1F 動物シアター
内 容：のいち動物公園 絹田俊和園長による基調講演と、地森秀二（四国自然史科学研究センター）、岩瀬文人（黒潮生物研究財団）、石川妙子（環境活動支援センターえこらぼ）、嶋崎健史（サニーマート）による事例発表、パネルディスカッション

○大阪自然史フェスティバル 2011・リミテッド

期 日：平成 23 年 11 月 19-20 日
主 催：大阪自然史センター、関西自然保護機構、大阪市立自然史博物館、日本望遠鏡工業会
場 所：大阪市立自然史博物館
内 容：自然関連のサークル、地域の自然保護団体などが活動を紹介し、交流を深め、大阪市民に大阪に自然の現状や自然に関わる活動の楽しさを知ってもらうイベント。イベント内の「リレートーク『海こそ生物多様性のみなもと』（「写真でわかる磯の生き物図鑑」出版記念）で今原が参加協力

○第 28 回土佐清水市産業祭

期 日：平成 23 年 12 月 4 日

主 催：土佐清水市産業祭実行委員会

場 所：土佐清水市西町

内 容：竜串自然再生協議会のブースを出展。展示内容はプロジェクトのパネル展示のほか、サンゴの骨格標本の展示、サンゴのスタンプなど

○海洋博研究センター サンゴシンポジウム 2011「サンゴの移植⑥ー有性生殖と無性生殖による種苗生産技術ー」

期 日：平成 23 年 12 月 8 日

主 催：海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター

共 催：名桜大学総合研究所

場 所：沖縄県本部町 海洋博覧会記念公園管理財団 視聴覚室・会議室

内 容：毎年 1 回行っているサンゴ礁保全に関する取り組みのうち、サンゴの移植に特化したシンポジウムの 6 回目。今回は、漁協など水産関係団体のサンゴ礁保全の取り組みが本格的に行われて 2 年目になるため、有性生殖によるサンゴの種苗生産に関する現状の理解と技術の進捗状況を学び、今後の取り組みへの適用・発展に資することが目的。講演とパネルディスカッションに参加。

○第 1 回千年サンゴと活きるまちづくりタウンミーティング

期 日：平成 23 年 12 月 10 日

主 催：徳島県・牟岐町・千年サンゴと活きるまちづくり協議会

場 所：徳島県牟岐町 貝の資料館「モラスコむぎ」

内 容：牟岐町では大島の海に育っている「千年サンゴ」をシンボルにした町おこしを行っている。サンゴ保全と両立する町おこしの実現に向けて、岩瀬文人（黒潮生物研究所）の講演と藤本正明（自然と釣りのネットワーク）、浜口和也（NPO 竜串観光振興会）、小川明日子（千年サンゴと活きるまちづくり協議会）の情報提供、澤田俊明（環境とまちづくり）によるワークショップをおこない、アイデアを出した。

○研究発表会 はたのおと 2012

期 日：平成 24 年 2 月 11 日

主 催：はた研究会「はたのおと」・四万十市教育委員会

場 所：四万十市立中央公民館

内 容：「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに（井上ひさし）」をコンセプトに、さまざまな分野の研究者、専門家、学生らが、幡多の魅力をいろいろな角度から発表する研究発表会。中地が「宝石珊瑚漁で混獲される深い海の生き物たち」というタイトルで講演。

○酢酸注射によるオニヒトデ駆除に関する意見交換会

期 日：平成 24 年 2 月 11 日

主 催：環境省 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター・八重山サンゴ礁保全協議会

場 所：石垣市八島 環境省 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

内 容：7 月に発行した「オニヒトデ駆除マニュアル」をもとに、酢酸注射によるオニヒトデ駆除法について岩瀬が説明し、参加者と意見交換を行った。多くの参加者は酢酸注射によるオニヒトデ駆除に好意的な関心を持っており、近々、試験的にこの手法で駆除を実施する方向で検討することになった。

○竜串奇岩フェスティバル

期 日：平成 24 年 2 月 12 日

主 催：NPO 竜串観光振興会

場 所：土佐清水市竜串 爪白キャンプ場及び周辺

内 容：竜串自然再生協議会のブースを出展。展示内容はプロジェクトのパネル展示のほか、

竜串海の生き物クイズ、サンゴの骨格標本の展示、サンゴのスタンプなど

○第1回四国生物多様性会議 in 松山 ～いのちが輝く四国を次代へつなげていくために～

期 日：平成24年2月18日

主 催：四国生物多様性ネットワーク・国際自然保護連合
日本委員会

場 所：松山市 愛媛県生活文化センター

内 容：四国各県で生物多様性の保全に関わる個人・団体が集まり、各地域において、生物多様性の大切さをどのように捉え、伝え、保全に取り組んでいくべきかについて探ることが目的。道家哲平（日本自然保護協会）による基調講演「四国で、地域で、生物多様性の保全を進めるために、COP10の成果を活用しよう」、村上智一（シクロツーリズムしまなみ）、二宮 修（香川県みどり保全課）、岩瀬文（黒潮生物研究所）、新開善二（生物多様性とくしま会議）による事例報告、パネルディスカッションなど。



【博物館等の展示への協力】

○国立科学博物館 企画展「宝石サンゴ展」～深海からのおくりもの～

期 日：平成23年4月1日～5月29日

主 催：国立科学博物館、高知大学

後 援：農林水産省、高知県

場 所：国立科学博物館 地球館地下1階 特別展示室

協力内容：写真原版等の貸し出し

○碧南海浜水族館 冬の特別展「サンゴと海」

期 日：平成24年1月2日～2月12日

主 催：碧南市立碧南海浜水族館

場 所：同上

協力内容：宝石珊瑚類の標本・写真・製品等の貸し出し

○ウミガメと環境・写真と漂着物展

期 日：平成24年1月24～31日

主 催：土佐遊亀会 溝渕幸三氏

場 所：四万十市中央公民館ロビー

協力内容：展示・後片付けに協力、展示物の貸し出し

○長崎ペンギン水族館 春の特別企画「海のお花畑展」

期 日：平成24年3月29日～5月31日

主 催：長崎ペンギン水族館

場 所：長崎ペンギン水族館 1階多目的室

協力内容：写真原版等の貸し出し

(3) 団体への参加、委員・役員等の就任状況

【参加団体等】

財団、研究所あるいは職員は以下の団体に参加している。（括弧内に「個人」とあるのは財団
役職員が個人の資格で、「財団」とあるのは法人として、「研究所」とあるのは団体として参加

の意)

【学会・研究会等】日本サンゴ礁学会（財団）、日本動物学会（個人）、日本生物地理学会（個人）、日本動物分類学会（個人）、日本藻類学会（個人）、日本応用藻類学会（個人）、日本地質学会（個人）、全日本博物館学会（個人）、日本刺胞・有櫛動物研究談話会 [NCB]（個人）、日本造礁サンゴ分類研究会（個人）、ウミウシクラブ [水産無脊椎研究所]（個人）、jfish [クラゲメーリングリスト]（個人）、大阪湾海岸生物研究会（個人）、南紀生物同好会（個人）、土佐生物学会（個人）

【NPO 法人等】NPO 法人日本ウミガメ協議会（財団）、NPO 法人環境の杜こうち（財団）、NPO 法人黒潮実感センター（財団）、NPO 法人あど未来（個人）、NPO 法人太平洋ありきたり水族研究センター（個人）

【法定自然再生協議会】竜串自然再生協議会（財団）、竹ヶ島海中公園自然再生協議会（財団）

【任意団体等】四国生物多様性ネットワーク（財団）、足摺宇和海保全連絡協議会（研究所）、高知県地球温暖化防止県民会議（財団）、幡多地域大学推進協議会（財団）、土佐遊亀会（財団）、八重山サンゴ礁保全協議会（個人）、紀伊半島ウミガメ情報交換会（個人）、足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会（個人）

【委員・役員等就任】

財団の役職員は以下の委員・役員等に就任した。

- ・環境省モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査検討委員（岩瀬）
- ・環境省サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議委員（岩瀬）
- ・農林水産省環境相談員 [登録番号：39013]（岩瀬）
- ・全漁連環境生態系技術サポート専門家（岩瀬）
- ・高知県文化環境アドバイザー [分野：自然・環境]（岩瀬）
- ・竜串自然再生協議会 会長・技術支援委員・幹事（岩瀬） 幹事（中地）
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員（岩瀬）
- ・NPO 法人黒潮実感センター 理事（岩瀬）
- ・NPO 法人日本ウミガメ協議会 監事（岩瀬）
- ・NPO 法人太平洋ありきたり水族研究センター 理事（岩瀬）
- ・日本刺胞・有櫛動物研究談話会（NCB）幹事（岩瀬）
- ・足摺宇和海保全連絡協議会 事務局（財団）会長（岩瀬）
- ・幡多地域大学推進協議会 委員（岩瀬）
- ・牧野植物園学習プログラム開発委員会 委員（岩瀬）
- ・大月町イベント実行委員会役員（中地・田中）
- ・大月町地域教材策定委員会委員（中地）
- ・地域の先生（大月小学校人材バンク）（岩瀬・中地・田中・目崎）
- ・西泊地区 役員（岩瀬・中地）

（４）学校教育・地域の環境教育活動等への協力

【学校教育への協力】

○大月町立大月小学校

・1年生自然学習

期日：平成23年6月13日

場所：黒潮生物研究所前海岸

内容：平成21年度より1年生の課外学習の受け入れを行っている。今年度は研究所前の海岸で磯の生き物観察を実施した。

・特別授業

期日：平成 23 年 10 月 11 日

場所：大月小学校体育館

対象：全校生徒（低学年対象と高学年対象の 2 回）

内容：東京工業大学 本川達夫先生による「生き物は円筒形」の話

○土佐清水市立三崎小学校 環境学習（竜串自然再生事業）

三崎小学校では、平成 18 年度より竜串自然再生事業の一環として、5 年生を対象に竜串の自然環境や人の暮らしとの関わりを学ぶ環境学習を継続的に行っている。当財団は調整役である土佐清水自然保護官事務所のアクティブレンジャーを補佐し、年間授業計画の立案、協力者との連絡調整などを行った。また、計 13 回の授業のうち 7 月に行われた下記授業の講師を務めた。この 5 年生の環境学習を含めた三崎小学校の取り組みは内外から高い評価を受けており、平成 23 年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞した。

期日：平成 23 年 7 月 4 日

場所：三崎小学校

内容：海の生き物仲間選び、サンゴについての講話、サンゴの標本やプラヌラの観察

○大月町立大月中学校 職場体験

期日：平成 23 年 7 月 6-7 日

場所：黒潮生物研究所

内容：3 年生 4 名の職場体験を受け入れ、2 日にわたり研究所の仕事を体験してもらった。

○愛南町立内海中学校

内海中学校では、以前より総合学習の一環としてシーカヤックやスノーケリング技術を学ぶ「海学習」に取り組んできた。平成 21 年度からは、黒潮生物研究所の協力によって、習得した技術を使って、内海海域におけるサンゴ群集のモニタリング調査を実施している。

・海学習 1. 事前学習

期日：平成 23 年 6 月 29 日

場所：内海中学校

内容：全校生徒に対する地域の海と生き物に関する講話
モニタリングを行う 3 年生を対象とした事前学習

・海学習 2. 調査 1

期日：平成 23 年 7 月 7 日

場所：愛南町 須ノ川海岸・サバ網代

対象：3 年生

内容：スノーケリングによるスポットチェック調査

・海学習 3. 調査 2

期日：平成 23 年 9 月 30 日

場所：愛南町 塩子島

対象：3 年生

内容：シーカヤックによるロングツーリングとスポットチェック調査

・海学習 4. 発表会 1

期日：平成 23 年 10 月 30 日

場所：内海中学校

対象：3 年生

内容：文化祭で校内発表

・海学習 5. 発表会 2

期日：平成 23 年 11 月 30 日

場所：内海中学校

対象：3年生

内容：第2回南宇和郡教育研究会研究発表大会で発表

○高知県立宿毛高等学校 環境学習「宿毛の自然」

期日：平成23年11月11日

場所：黒潮生物研究所

対象：3年生（科目「宿毛の自然」受講生20人）

内容：宿毛湾の自然環境と生物について講義

○高知県立四万十高等学校 自然環境コース課外授業「森と川と海」

期日：平成24年1月19-20日

場所：土佐清水市竜串・黒潮生物研究所・大月町エコロジーキャンプ場等

対象：自然環境コース1年生

内容：竜串における自然再生の取り組みを素材とした1泊2日の環境教育プログラムを企画・立案し、竜串環境教育グループの協力のもと提供した。

【その他の環境教育活動への協力】

○四万十市立中筋小中学校 PTA 生活研修事業「親子で親しむ磯の生き物」

期日：平成23年7月24日

主催：中筋小中学校 PTA

場所：黒潮生物研究所

対象：中筋小中学校 PTA 会員および児童 40人

内容：研究所に來所し、サンゴやヒトデなど幡多の海の生き物について講演をした

○ボランティア体験学習 体験①海の生き物色々探検

期日：平成23年8月8日

主催：大月町社会福祉協議会

場所：黒潮生物研究所および地先海岸

対象：大月町在住の児童生徒 34人

内容：午前中研究所前の浜で漂着物の観察・採集をした後、研究所で海岸に打ち上がっていた「生きていたもの」の話・サンゴの話をした。午後は福祉施設で体験学習

○宇和島自然科学教室

期日：平成23年10月30日

主催：宇和島自然科学教室

場所：愛南町立内海中学校 多目的室

対象：宇和島自然科学教室会員（宇和島市内小学校4～6年生）90人＋教職員15人

内容：講演「足摺宇和海の環境と生き物ーサンゴの海と生き物たちー」

「足摺宇和海の棘皮動物」

「地域の海を守る活動について」

○自然体験活動指導者養成研修

期日：平成24年2月10-12日

主催：高知県教育委員会 実施主体：四万十楽舎

場所：四万十市 四万十楽舎

対象：自然体験活動の指導に関する研修の受講経験がある方、自然体験活動や環境学習の指導および指導補助の経験者 6人

内容：①自然体験活動の理念 ②自然の理解 ③対象者理解 ④自然と人・社会・文化との関わり ⑤安全管理 ⑥自然体験活動の指導法 ⑦自然体験活動の技術 ⑧自然体験活動の企画と運営などのカリキュラムによる研修のうち、②自然の理解：海洋と生物、⑤安全管理：海岸域での活動に必要な事前準備等について講義を行った。

(5) 広報・出版

○和文機関誌「CURRENT」の発行

季刊(4, 7, 10, 1月)で発行している機関誌で、中学生以上を対象に、財団が実施している研究や事業について平易な言葉で紹介する。送付対象は国内の研究機関、博物館、動物園、水族館、その他関連団体、県内の学校、財団に寄附をいただいた方々など。発行部数250部程度。内容については業績の項を参照のこと。

○英和文学術誌「Kuroshio Biosphere」の発行

年1回発行している紀要で、研究者を対象に財団業績の紹介、研究所周辺の動植物相、研究所を利用して行われた研究の報告などを掲載する。送付対象は国内外の研究機関、博物館など。発行部数200部程度。内容については業績の項を参照のこと。



○「オニヒトデ駆除マニュアル」の出版

オニヒトデには毒棘があり、駆除作業中の刺傷が耐えない。そのため研究所では、より危険が少なく効率の上がる駆除法として岡山理科大学との共同研究により酢酸注射によるオニヒトデ駆除法を開発した。

今年度は、多くの人に酢酸注射によるオニヒトデ駆除を試験的に実施してもらい、意見や感想を得てこの手法の完成度を高めることを目的に、7月に「オニヒトデ駆除マニュアル～酢酸の注射による駆除手法の紹介～」を200部印刷し、オニヒトデ駆除関連団体等に配布した。印刷・製本にあたっては、造礁サンゴ保護育成基金の資金を活用した。なお、このマニュアルは財団ホームページからpdfファイルをダウンロードすることができる。



<http://www.kuroshio.or.jp/disc/Publication/AceticAcidInjectionManual.pdf>

また、今年度は環境省中国四国地方環境事務所から「平成23年度マリンワーカー事業(オニヒトデ駆除手法調査事業)」として環境省版のマニュアル作成を請け負い、酢酸注射によるオニヒトデ駆除事業を企画・実施するにあたって必要な事業計画の流れ、モニタリング調査手法、安全管理基準、器具や消耗品の単価試料、購入先などの具体的な情報を網羅した和文版・英文版各100部のマニュアルを作成した。こちらのマニュアルについても、環境省中国四国地方環境事務所のホームページからpdfファイルをダウンロードすることができる。



和文版 http://chushikoku.env.go.jp/to_2012/data/0515aa.pdf
英文版 http://chushikoku.env.go.jp/to_2012/data/0530aa.pdf

○ホームページの運用

平成 14 年度より、財団ホームページ (<http://www.kuroshio.or.jp>) 上に情報公開のページを設け、事業報告、決算報告と事業計画、収支予算書、役員・評議員・職員名簿等を公開している。また、ホームページには寄附の募集、助成研究の募集、研究所の利用に関する情報、出版物に関する情報などを掲載・更新している。機関誌「CURRENT」については総目次を、学術誌「Kuroshio Biosphere」については総目次と出版から 1 年を経過した巻の内容の pdf 版による閲覧とダウンロードができるようにしており、財団の業績一覧や職員採用などの情報も掲載して、財団の活動や成果の広報に努めている。前項で紹介したオニヒトデ駆除マニュアルもホームページからダウンロードできる。なお、研究所周辺の出来事や自然の様子などについては、ホームページからリンクしているブログで紹介している。

○ブログの運用

平成 17 年 5 月に開始した財団ブログ (<http://kuroshio.blog.ocn.ne.jp/>) に、今年度もサンゴの産卵情報を中心に新着の話題をタイムリーに掲載した。夏のピーク時には 100 件/日に達するほど好評を得ている。今年度 1 年間で 217 件の話題を掲載し、約 20,000 件の閲覧があった。情報発信力は非常に高い。

(6) マスコミ

○テレビ番組

- ・ 2011.08.03 高知放送 「高知 eye」 神秘大月町でサンゴの産卵
 - ・ 2011.08.30 高知放送 「高知 eye」 見残しシコロサンゴの産卵
 - ・ 2011.09.14 高知放送 「デジタルアルバム～残したい高知の風景・映像遺産～」
- 夜と朝のサンゴの産卵と研究所の簡単な紹介
- ・ 2011.10.01 テレビ大阪 「かがく de ムチャミタス！」 ドクとマイカのネイチャー調査隊！
幻の千年サンゴを探せ (監修：岩瀬)
- テレビ和歌山・びわ湖放送・奈良テレビ・福井テレビ・テレビ北海道でも放送

○ラジオ番組

- ・ 2011.10.08 高知放送ラジオ 黒潮生物研究所 10 周年イベントの紹介 (電話出演：岩瀬)

○新聞記事

《一般記事》記事本文中に「黒潮生物研究所」あるいは「黒潮生物研究財団」があるもの

《連載》『大月発 くろしお便り』については「6 業績」の項に記載

- ・ 2011.05.28 朝日新聞 (駿河湾ちょっと底まで) アカキタトサカ サンゴの仲間です 柴田勝重/静岡県 東京地方版/静岡 26 頁 静岡全県
- ・ 2011.07.01 高知新聞 オニヒトデ酢酸で退治開始 世界初の実用化 大月町柏島 朝刊 26 頁
- ・ 2011.07.05 高知新聞 県西南部のサンゴ守れ 宿毛市、大月町の漁業関係者ら養殖へ種苗生産 朝刊 24 頁
- ・ 2011.07.17 愛媛新聞 学びの現場から (5) 内海 (うちうみ) 中学校 (愛南) 海学習 (うみがくしゅう) サンゴ撮影 生態記録 朝刊 21 頁
- ・ 2011.08.04 朝日新聞 東洋町でサンゴ大規模死滅 台風 6 号影響か 8 割以上が白化/高知県 大阪地方版/高知 27 頁 高知全県
- ・ 2011.08.08 毎日新聞 百聞百見とくしま：エダミドリイシー斉産卵ー海陽・竹ヶ島海域公園 /徳島 地方版/徳島 21 頁
- ・ 2011.08.24 東京新聞 シコロサンゴ産卵撮った 高知沖 朝刊 27 頁
- ・ 2011.08.30 朝日新聞 海岸に巻き貝の卵ゴロゴロ 四万十市、台風の大波で漂着か /高知県 大阪地方版/高知 29 頁 高知全県

- ・ 2011.09.06 朝日新聞 (週刊まちぶら) 愛南町・須ノ川海岸 潜ればそこは夢の国 / 愛媛県 大阪地方版/愛媛 32 頁 愛媛全県
- ・ 2011.09.20 朝日新聞 海の花束、淡い彩り 周防大島沖のニホンアワサンゴ群落【西部】 西部朝刊 1 頁
- ・ 2011.09.20 朝日新聞 最大級のニホンアワサンゴ群落を研究者らが観察 山口・周防大島沖【大阪】 大阪朝刊 33 頁
- ・ 2011.09.29 朝日新聞 中学生 19 人がサンゴを調査 愛南の塩子島 / 愛媛県 大阪地方版/愛媛 31 頁 愛媛全県
- ・ 2011.09.30 愛媛新聞 サンゴ群生 愛南の宝 種類や分布食害状況 内海中生が生態調査 朝刊 11 頁
- ・ 2011.10.03 高知新聞 『短波』 夕刊 1 頁
- ・ 2011.10.03 高知新聞 黒潮生物研究所 10 周年 大月を海洋研究の中心に サンゴ保全に 尽力 朝刊 20 頁
- ・ 2011.10.07 高知新聞 金曜フリースペース 宿毛支局新聞 創立 10 年の黒潮生物研究所 (大月町) 海に挑む科学者/地域の研究世界へ 朝刊 24 頁
- ・ 2011.10.07 朝日新聞 イベントガイド/高知県 大阪地方版/高知 26 頁 高知全県
- ・ 2011.10.09 高知新聞 海守る活動今後も 黒潮生物研 10 周年イベント親子ら知識深める 高知市 朝刊 31 頁
- ・ 2011.10.12 高知新聞 10 周年の黒潮研 大月町でも報告会?朝刊 31 頁
- ・ 2011.10.24 高知新聞 『新聞を読んで』研究の夢広がる大月の海 県文教振興会副会長 山崎清朗 (高知市) 朝刊 17 頁
- ・ 2011.11.24 毎日新聞 須磨海浜水族園亀崎園長のあっぱれ! 水の動物たち 闘士インサンゴ 光を求め容赦なし
- ・ 2011.12.11 徳島新聞 千年サンゴの保護考える 牟岐、30 人参加し意見交換会 朝刊 23 頁
- ・ 2011.12.29 高知新聞 『2011 年支社局が選ぶ重大ニュース』(下) 海洋堂ホビー館 開館 大月の葉タバコ不作 朝刊 29 頁
- ・ 2012.01.04 琉球新報 放流カメ、14 年経て発見/石垣から 2300 キロマイクロネシアへ/回遊生態解明に期待?朝刊 23 頁地 21 版
- ・ 2012.01.24 中国新聞 島の恵み~周防大島から <1>アワサンゴ研究 朝刊
- ・ 2012.02.04 高知新聞 『声ひろば』心に残る写真展 山本八重子 (69) 主婦、宿毛市二ノ宮 朝刊 18 頁
- ・ 2012.02.05 愛媛新聞 [キーパーソン] 四国西南地域のサンゴなど海洋生物の調査研究を続ける黒潮生物研究所長岩瀬文人さん (54) 生態の謎解明し次代へ 朝刊
- ・ 2012.02.12 八重山日報新聞 黒潮生物研究所 酢酸注射でオニヒトデ駆除 意見交換会で報告 3 頁
- ・ 2012.02.16 朝日新聞 幡多の自然・文化を発信 四万十市/高知県 大阪地方版/高知 30 頁高知全県
- ・ 2012.03.24 八重山毎日新聞 オニヒトデ対策酢酸注射は有効か
- ・ 2012.03.29 八重山毎日新聞 オニヒトデ酢酸注射で 388 匹駆除 八重山ダイビング協会、駆除法として推進へ

○その他 (ミニコミ等)

- ・ タウン情報誌「松山百点」 2011.07.01 発行号 巻頭特集「百点スペシャル多様な生物のゆりかご、宇和海海中公園 サンゴの海と熱帯の魚」(監修: 中地)

5. 請負調査・委託業務等

平成23年度は、以下の8件の業務を受託または請け負った。(契約日順)

○環境生態系保全活動モニタリング調査及び進行管理委託業務

契約先：宿毛湾環境保全連絡協議会

契約期間：平成23年4月28日～平成24年3月19日

内容：水産庁からの交付金によるオニヒトデ駆除事業のためのモニタリング調査および進行管理業務、および造礁サンゴ種苗生産技術の開発と作製した種苗によるサンゴ移植の実施に関する指導

○平成23年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

契約先：環境省 中国四国地方環境事務所

契約期間：平成23年5月20日～平成24年3月22日

内容：竜串自然再生のためのモニタリング調査、および造礁サンゴ種苗生産、放流技術確立のための試験

○平成23年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

契約先：財団法人自然環境研究センター

契約期間：平成23年6月14日～平成24年1月31日

内容：四国南西部沿岸における造礁サンゴ群集のモニタリング調査

○平成23年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）

契約先：環境省中国四国地方環境事務所

契約期間：平成23年8月12日～平成24年3月9日

内容：足摺宇和海国立公園の高知県沿岸におけるボランティアによるオニヒトデ等サンゴ食害生物駆除

○高知県香南市夜須町大手の浜周辺海域の造礁サンゴ群集の変遷に関する調査業務

契約先：国立大学法人高知大学

契約期間：平成23年9月1日～平成24年3月31日

内容：海洋温暖化によって激しく変化している四国沿岸の生態系を、造礁サンゴ群集の変化として捉えるための調査

○平成23年度ウミトサカ類生物相調査における標本収集および同定業務

契約先：財団法人海洋博覧会記念公園管理財団

契約期間：平成23年9月13日～平成24年3月20日

内容：沖縄県本部町美ら海水族館周辺海域のウミトサカ類相の調査と標本作製

○H23自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生事前調査業務

契約先：ニタコンサルタント株式会社

契約期間：平成23年7月30日～平成24年3月25日

内容：竹ヶ島海中公園自然再生におけるモニタリング調査、及びサンゴ増殖技術確立のための試験

○平成23年度マリンワーカー事業（オニヒトデ駆除手法調査事業）

契約先：環境省中国四国地方環境事務所

契約期間：23年12月5日～24年3月23日

内容：酢酸注射によるオニヒトデ駆除法の普及のため、手法の改良試験と事業計画に必要な単価表や事業手順などを網羅した和英文のマニュアル作成の業務

6. 業績(ゴチック体の氏名は財団役職員)

(1) 著作

【機関誌等】

○黒潮生物研究財団紀要“Kuroshio Biosphere” Vol. 8, March 2012

- ・中野理枝, 高知県大月町西泊海域から記録された後鰓類 補遺. pp. 1-15, 3 pls.
NAKANO, Rie. Opisthobranchs (Mollusca: Gastropoda) from Nishidomari, Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. Supplement. pp. 1-15, 3 pls.
- ・KUBOTA, Shin. Green fluorescence protein (GFP) firstly detected in an immature medusa of *Nausithoe* sp. from Japan. pp. 17-18, 1 pl.
- ・久保田信. 黒潮生物研究所付近の有クラゲ類 (その1). pp. 19-22, 1 pl.
KUBOTA, Shin. Medusozoa collected from around the Biological Institute on Kuroshio (No. 1). pp. 19-22, 1 pl.
- ・目崎拓真. 高知県大月町尻貝初分布記録の耳状放射サンゴ個体のミドリイシ属の一種. pp. 23-26. 1 pl.
MEZAKI, Takuma. First record of distribution of *Acropora* sp. with cochleariform radial corallites from Shirigai, Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. pp. 23-26. 1 pl.
- ・今原幸光. 大阪湾で発見されたコマイハナゴケと日本産ハナゴケ属の再検討. pp. 27-37. 2 pls.
IMAHARA, Yukimitsu. *Cervera komaii* from Osaka Bay with a brief revision on the Japanese primitive stoloniferan genus *Cervera* (Alcyonacea, Octocorallia). pp. 27-37. 2 pls.

○黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 12, No. 1 [通巻 44 号] (平成 23 年 4 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 表紙: ツバクロエイ *Gymnura japonica*. p. 1
- ・目崎拓真・亀田和成. 2010 年黒島周辺海域のスポットチェックの結果と 3 カ年の比較. pp. 2-3
- ・中地シュウ. 足摺宇和海の棘皮動物 1 ヒトデ界の悪役オニヒトデ. p. 4
- ・目崎拓真. 私の愛するサンゴたち (四国編) No. 1 シコロサンゴ *Pavona decussata*. p. 5
- ・田中幸記. 海藻の森をゆく No. 1 フタエモク *Sargassum duplicatum*. p. 5
- ・中地シュウ. 畦道の哲学者 シュレーゲルアオガエル. p. 6

Vol. 12, No. 2 [通巻 45 号] (平成 23 年 7 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 表紙: ニセスナホリムシ *Cirolana harfordi japonica*. p. 1
- ・田中幸記. 愛媛県愛南町須ノ川海岸のホンダワラ類. pp. 2-3
- ・岩瀬文人. 「オニヒトデ駆除マニュアル~酢酸の注射による駆除手法の紹介~」の公開. p. 4
- ・中地シュウ. 足摺宇和海の棘皮動物 2 竜串湾で日本初記録 アシウラダイダイグミモドキ. p. 5
- ・目崎拓真. 私の愛するサンゴたち (四国編) No. 2 スギノキミドリイシ *Acropora muricata*. p. 6
- ・田中幸記. 海藻の森をゆく No. 2 カジメ *Ecklonia cava*. p. 6
- ・イベントのお知らせ 黒潮生物研究所 10 周年記念行事を開催します. p. 7
- ・中地シュウ. クワガタ探しはコンビニで. p. 8

Vol. 12, No. 3 [通巻 46 号] (平成 23 年 10 月 25 日発行) 黒潮生物研究所 10 周年記念号

- ・中地シュウ. 表紙: タコクラゲ *Mastigias papua*. p. 1
- ・岩瀬文人. 黒潮生物研究所 10 周年記念行事の報告. pp. 2-3
- ・目崎拓真. 「ここまでわかった幡多の海」講演要旨 1 ところ変わればサンゴも違う!? -

サンゴの分布と産卵ー. pp. 4-5

- ・田中幸記. 「ここまでわかった幡多の海」講演要旨 2 あの藻場はどこへ行ったー変わりゆく高知の海藻ー. pp. 6-7
- ・岩瀬文人. 「ここまでわかった幡多の海」講演要旨 3 サンゴの一生を見てみたいーサンゴ種苗生産の取り組みー. pp. 8-9
- ・中地シュウ. 「ここまでわかった幡多の海」講演要旨 4 海に親しみ海を見守るー教育と保全の取り組みー. pp. 10-11
- ・目崎拓真. 私の愛するサンゴたち (四国編) No. 3 サボテンミドリイシ *Acropora florida*. p. 12
- ・田中幸記. 海藻の森をゆく No. 2 キレバモク *Sargassum alternato-pinnatum*. p. 12
- ・中地シュウ. 足摺宇和海の棘皮動物 3 世界最大級のナマコ バイカナマコ *Thelenota ananas*. p. 13
- ・中地シュウ. 地域の自然と遊ぶ. p. 14

Vol. 12, No. 4 [通巻 47 号] (平成 24 年 1 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 表紙: イガグリウミウシ *Cadlinella ornatissima*. p. 1
- ・中地シュウ. 四国西南海域の浅海域に見られる南方系クモヒトデ類について. pp. 2-4
- ・目崎拓真. 私の愛するサンゴたち (四国編) No. 4 コモンキクメイシ *Goniastrea retiformis*. p. 5
- ・田中幸記. 海藻の森をゆく No. 4 タマナシモク *Sargassum nipponicum*. p. 5
- ・中地シュウ. 竜串で四万十高校の課外学習. p. 6

○原著 (査読あり)

- ・Kubota S. & Imahara Y. 2011. Northernmost geographical distribution of *Velevella velevella* (Hydrozoa: Porpitiidae) in the Middle of the North Pacific. *Biogeography*, 13: 95-96.
- ・Maoka T., Akimoto N., Tsushima M., Komemushi S., Mezaki T., Iwase F., Takahashi Y., Sameshima N., Mori M., Sakagami Y. 2011. Carotenoids in Marine Invertebrates Living along the Kuroshio Current Coast. *Marine Drugs*, 9: 1419-1427.

○原著 (査読なし)

- ・Imahara Y. 2011. Preliminary report on the alcyonacean and pennatulacean octocorals from the Izu and Ogasawara Islands. *Memoirs of the National Science Museum*, (47): 25-37.
- ・武田正倫・今原幸光. 2011. 日本初記録のツブイボシヨウジンガニ (新称) *Plagusia immaculate* Lamarck, 1818 (甲殻類、十脚目、シヨウジンガニ科). *南紀生物*, 53 (2): 115-117.
- ・Iwase F., Kimura T. 2011. Restoration of a high latitude coral reef damaged by a landslide in Tatsukushi, Kochi, Japan. in: *Catchment management and coral reef conservation*. (ed. C. Wilkinson & J. Brodie), *Global Coral Reef Monitoring Network (Australia)*. : 94-95.

○その他の著作

- ・今原幸光 (編著). 2011.07 写真でわかる磯の生き物図鑑, トンボ出版 (大阪), 272 pp.
- ・岩瀬文人 (編著). 2011.07. オニヒトデ駆除マニュアル 酢酸の注射による駆除手法の紹介, 黒潮生物研究財団 (高知), 21 pp.
- ・目崎拓真. 2012.01. 若手優秀発表賞受賞報告. 日本サンゴ礁学会ニュースレター, (52): 3.
- ・目崎拓真. 2012.01. 自由集会開催報告 日本サンゴ礁学会ニュースレター, (52): 5.
- ・岩瀬文人. 2012.03. ECO-Report 黒潮生物研究所「四国海の守り人交流会」. 月刊ダイバー, (369): 96-97.
- ・環境省中国四国地方環境事務所. 2012.03. オニヒトデ駆除マニュアル 酢酸の注射による駆除手法の適用. 黒潮生物研究財団 (編), 環境省中国四国地方環境事務所 (岡山市), 29 pp.
- ・Chugoku-Shikoku Regional Environmental Office. 2012.03. Crown-of-thorns starfish control manual.

Introduction to the acetic acid injection method. ed.: Kuroshio Biological Research Foundation, Chugoku-Shikoku Regional Environmental Office (Okayama), 29 pp.

○新聞連載 土曜ネーチャー『大月発くろしお便り』(高知新聞 4週に1回朝刊に掲載)

4月までは毎月1回金曜の夕刊に海からの伝言『大月発くろしお便り』として掲載されていたが、5月からは、土曜ネーチャー『大月発くろしお便り』という新たなシリーズとして土曜の朝刊に連載されることになった。

- ・2011.04.22 なぎさで探索 (岩瀬文人) ここまで夕刊掲載
- ・2011.05.28 設立10周年の節目に (岩瀬文人)
- ・2011.06.25 テングサ大好きアオウミガメ (田中幸記)
- ・2011.07.23 サソリモドキが出た! (中地シュウ)
- ・2011.09.03 巨大シコロサンゴの産卵 (目崎拓真)
- ・2011.10.08 マイナー生物研究の孤独 (岩瀬文人)
- ・2011.11.05 南国にもコンブの仲間 (田中幸記)
- ・2011.12.03 水晶を探す楽しみ (中地シュウ)
- ・2012.01.07 適者生存の戦い (目崎拓真)
- ・2012.02.04 四万十校生が自然体験 (岩瀬文人)
- ・2012.03.03 季節を告げる海藻たち (田中幸記)

(2) 講演等

○学会等

- ・鮫島直己・原田遼・高橋慶光・眞岡孝至・岩瀬文人・米虫節夫・森美穂・坂上吉一. 2011.9.14. サンゴおよびサンゴ卵のカロテノイド成分について. 第25回 カロテノイド研究談話会 (つくば) 口演発表.
- ・岩瀬文人. 2011.9.28. オニヒトデ駆除～酢酸注射による新駆除法の確立と「駆除」にまつわる話. 第7回日本刺胞・有櫛動物研究談話会大会 (柳井) 口演発表
- ・尾花由樹・鈴木翔子・岩瀬文人・中野正夫・赤川泉. 2011.10.1. ハナハゼ *Ptereleotris hanae* のペアボンドと行動の性的二型. 第44回日本魚類学会年会 (弘前) ポスター発表.
- ・広瀬慎美子・目崎拓真・諏訪僚太. 2011.11. イシサンゴに穿孔するルリツボムシ (*Berndtia purpurea* 蔓脚下綱; 尖胸上目) の繁殖生態と地理的変異. 第14回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); 口演発表
- ・山野博哉・杉原 薫・河地正伸・野島 哲・岩瀬文人・野村恵一・清本正人・横山耕作. 2011.11. サンゴ分布北上とそのモニタリング. 第14回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); 口演発表
- ・大久保奈弥・Hayward D.・目崎拓真・野澤洋耕・中野義勝・Foret S.・深見裕伸・Ball E. 2011.11. サンゴにおける原腸形成期はいつから始まるのか? 第14回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); 口演発表
- ・目崎拓真. 2011.11. 造礁サンゴの産卵情報は分類に役立つのか? 第14回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); ポスター発表. 若手優秀発表賞受賞
- ・鮫島直己・原田 遼・高橋慶光・眞岡孝至・岩瀬文人・米虫節夫・森 美穂・坂上吉一. 2011.11. サンゴおよびサンゴ卵中のカロテノイド成分の検出. 第14回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); ポスター発表.
- ・久保田賢・目崎拓真. 2011.11. 高知県大月町における造



礁サンゴに共生するクレード F の褐虫藻の存在. 第 14 回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); ポスター発表.

- Keshavmurthy Sh., Mezaki T., Reimer J., Wang J. T., Hsieh H. J., Chen C. A. 2011.11. Phylogeography of symbiotic polymorphism in *Aiptasiapuchella* in the West Pacific. 第 14 回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市); ポスター発表.
- 中地シュウ. 2011.12. 四国西南海域の棘皮動物. 第 8 回棘皮動物研究集会 (名古屋大学博物館); ポスター発表
- 今原幸光. 2012.01. 大阪湾で発見されたコマイハナゴケと日本産ハナゴケ属の再検討. 大阪湾海岸生物研究会総会・研究発表会 (大阪市立自然史博物館); 口演発表
- 中地シュウ. 2012.02. 宝石珊瑚網で混獲される深い海の生き物について. はたのおと 2012 (四万十市); 口演発表
- 田中幸記. 2012.03. 高知県沿岸における藻場構成種の変遷と生育環境の変化. 第 11 回日本応用藻類学会春季シンポジウム (東京海洋大学); 口演発表
- 岩瀬文人. 2012.03. 黒潮生物研究所における珊瑚類の研究と展望. 宝石珊瑚国際フォーラム in 高知 (IPCF 2012) (高知市); 口演発表

○依頼講演等

- 岩瀬文人. 2011.05. リーフチェック調査法. リーフチェック in 宍喰 (徳島県海陽町)
- 中地シュウ. 2011.07. 親子で親しむ磯の生き物ー目指せ達人! 磯遊びクイズー. 中筋小中学校 PTA 生活研修事業「親子で親しむ磯の生き物」(黒潮生物研究所)
- 岩瀬文人. 2011.08. 土佐の海をいろいろサンゴたち. 大月町社会福祉協議会ボランティア体験学習 (黒潮生物研究所)
- 田中幸記. 2011.08. 海の生き物どんなかたち? 森・川・海・人 つながり再発見! 2011「海編」(黒潮生物研究所)
- 岩瀬文人. 2011.08. サンゴと磯の生きものー海産無脊椎動物の分類と標本作製法ー. 高知の自然の情報を残す人をつくる (高知大学)
- 岩瀬文人・本川達夫・久保田信. 2011.10.08. 身近な海にこんな生き物が! ~映像とトークで学ぶ四国の海の生き物たち~. 黒潮生物研究所 10 周年記念イベント「歌おう♪さわろう! 海の生きもの」(高知市)
- 目崎拓真. 2011.10. ところ変わればサンゴも違う!?ーサンゴの分布と産卵ー. 黒潮生物研究所開所 10 周年記念シンポジウム「ここまでわかった幡多の海」~黒潮生物研究所 10 年の取り組み~ (大月町農村環境改善センター)
- 田中幸記. 2011.10. あの藻場はどこへ行ったー変わりゆく高知の海藻ー. 黒潮生物研究所開所 10 周年記念シンポジウム「ここまでわかった幡多の海」~黒潮生物研究所 10 年の取り組み~ (大月町農村環境改善センター)
- 岩瀬文人. 2011.10. サンゴの一生を見てみたいーサンゴ種苗生産の取り組みー. 黒潮生物研究所 10 周年記念シンポジウム「ここまでわかった幡多の海」~黒潮生物研究所 10 年の取り組み~ (大月町農村環境改善センター)
- 中地シュウ. 2011.10. 海に親しみ海を見守るー教育と保全の取り組みー. 黒潮生物研究所開所 10 周年記念シンポジウム「ここまでわかった幡多の海」~黒潮生物研究所 10 年の取り組み~ (大月町農村環境改善センター)
- 岩瀬文人. 2011.10. 変わりゆく四国の海~何を保全するべきか~. のいちの森の文化祭「人と動物の笑顔のために」動物公園フォーラム「高知の自然を守る~土佐の生物多様性元年を目指して~」(香南市)
- 中地シュウ. 2011.10. 足摺宇和海の環境と生き物ーサンゴの海と生き物たちー. 宇和島自然科学教室 (愛南町立内海中学校)
- 中地シュウ. 2011.10. 足摺宇和海の棘皮動物. 宇和島自然科学教室 (愛南町立内海中学校)

- ・中地シュウ. 2011.10. 地域の海を守る活動について. 宇和島自然科学教室 (愛南町立内海中学校)
- ・Chen A., 目崎拓真, Keshavmurthy Sh. (オーガナイザー) 2011.11. Hybridization or reproductive isolation of high latitude scleractinian corals and their implication for environmental change. 第14回日本サンゴ礁学会 自由集会1 (沖縄県那覇市)
- ・今原幸光. 2011.11. 海こそ生物多様性のみなもとー写真でわかる磯の生き物図鑑こぼれ話. 大阪自然史フェスティバル2011・リミテッド. (大阪市立自然史博物館)
- ・今原幸光. 2011.11. 相模灘調査で採集されたウミトサカ類等について. 大阪自然史フェスティバル2011・リミテッド. (大阪市立自然史博物館)
- ・中地シュウ. 2011.11. 足摺宇和海国立公園海域におけるサンゴ保全活動とサンゴの移植法について. 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 サンゴ移植イベント勉強会 (大月町エコロジーキャンプ場)
- ・中地シュウ. 2011.11. 竜串周辺の海の生き物と環境①サンゴは泳ぐし、けんかもする. 第五回竜串リーフチェック講演会 (土佐清水市竜串)
- ・中地シュウ. 2011.11. 竜串周辺の海の生き物と環境②あなたの知らない!? 無脊椎動物の世界～棘皮動物を中心に. 第五回竜串リーフチェック講演会 (土佐清水市竜串)
- ・岩瀬文人. 2011.12. 非サンゴ礁域 (四国) における有性生殖によるサンゴ種苗生産とその適用. 海洋博研究センター サンゴシンポジウム2011 (沖縄県本部町)
- ・岩瀬文人. 2011.12. サンゴという生き物 (千年サンゴの仲間達). 千年サンゴと生きる! まちづくりタウンミーティング (徳島県牟岐町)
- ・岩瀬文人. 2012.02. 安全管理.海(岸)域での活動に必要な事前準備等について. 自然体験活動指導者養成研修会 (四万十市)
- ・岩瀬文人. 2012.02. 自然の理解～海洋と生物～. 自然体験活動指導者養成研修会 (四万十市)
- ・岩瀬文人. 2012.02. オニヒトデ駆除～酢酸注射による新駆除法の確立と「駆除」にまつわる話. オニヒトデ酢酸注入駆除に関する意見交換会 (石垣市)
- ・岩瀬文人. 2012.02. 四国の海の生物多様性を守るために. 第1回四国生物多様性会議 in 松山 (松山市)
- ・田中幸記. 2012.02. 宿毛湾周辺における藻場の現状. 育成藻場実施協議会 (宿毛市すくも湾漁協)
- ・今原幸光. 2012.03. 大阪湾で見つかったコマイハナゴケ (八放サンゴ類) ー (付) 日本産ハナゴケ属の再検討. 黒潮生物研究所平成23年度研究助成成果講演会. (大阪府堺市 ステラケミファ株式会社三宝工場)
- ・岩瀬文人. 2012.03. 造礁サンゴの種苗生産ー卵から育てたサンゴが卵を産むまで. 黒潮生物研究所平成23年度研究助成成果講演会. (大阪府堺市 ステラケミファ株式会社三宝工場)

(3) 調査報告書等

- ・平成23年度環境生態系保全活動モニタリング調査及び進行管理委託業務報告書. 2012.03. (宿毛湾環境保全連絡協議会)
- ・平成23年度竜串地区自然再生事業海域調査業務報告書. 2012.03. (環境省中国四国地方環境事務所)
- ・平成23年度モニタリングサイト1000事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務報告書. 2012.01. (財団法人自然環境研究センター)
- ・平成23年度マリンワーカー事業 (足摺地域オニヒトデ等駆除事業) 報告書. 2012.03. (環

境省中国四国地方環境事務所)

- ・高知県香南市夜須町大手の浜周辺海域の造礁サンゴ群集の変遷に関する調査業務報告書. 2012.03. (高知大学)
- ・平成 23 年度ウミトサカ類生物相調査における標本収集および同定業務報告書. 2012.03. (財団法人海洋博覧会記念公園管理財団)
- ・H23 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生事前調査業務報告書. 2012.03. (ニタコンサルタント株式会社)
- ・平成 23 年度マリンワーカー事業 (オニヒトデ駆除手法調査事業) 報告書. 2012.03. (環境省中国四国地方環境事務所)
- ・環境省中国四国地方環境事務所. 2012.03. オニヒトデ駆除マニュアル 酢酸の注射による駆除手法の適用. 財団法人黒潮生物研究財団 (編) : 29 pp. : 再掲
- ・Chugoku-Shikoku Regional Environmental Office. 2012.03. Crown-of-thorns starfish control manual. Introduction to the acetic acid injection method. ed., Kuroshio Biological Research Foundation : 29 pp. : 再掲

(4) 研究所利用者の業績

○学位論文

- ・Tanaka H. 2012. 01. Sexual selection and speciation in interstitial environment inferred from the genus *Parapolycope* (Ostracoda: Crustacea). Graduate School of Science and Technology, Educational Division Department of Environment and Energy System, Shizuoka University.
田中隼人. 2012.01. パラポリコープ属 (貝形虫綱: 甲殻亜門) から推測する間隙環境における性選択と種分化. 静岡大学大学院自然科学系教育部環境・エネルギーシステム専攻

○卒業論文

- ・斉藤宇泰・松村 哲・宮川直喜. 2012.03. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と加入 - 2011 年. 東海大学 2011 年度卒業論文 指導教員: 横地洋之准教授.
- ・尾花由樹・鈴木翔子. 2012.03. ハナハゼ *Ptereleotris hanae* の社会行動-性的二型と配偶システム-. 東海大学 2011 年度卒業論文 指導教員: 赤川 泉教授.

○学会等

- ・田中隼人. 2011.06. *Parapolycope spiralis* (貝形虫綱: ポリコープ科) と 3 形態群. 日本動物分類学会第 47 回大会 (琉球大学)
- ・尾花由樹・鈴木翔子・岩瀬文人・中野正夫・赤川泉. 2011.10. ハナハゼ *Ptereleotris hanae* のペアボンドと行動の性的二型. 第 44 回日本魚類学会年会 (弘前) : 再掲
- ・岡本 慶・亀崎直樹. 2011.10. フランス国立自然史博物館に所蔵されている *Chelonia agassizii* のホロタイプについて. 第 50 回日本爬虫両棲類学会.
- ・寺岡孝晃. 2011.11. 高知県奈半利町に生息する造礁サンゴ群集. 第 14 回日本サンゴ礁学会 (沖縄県那覇市)

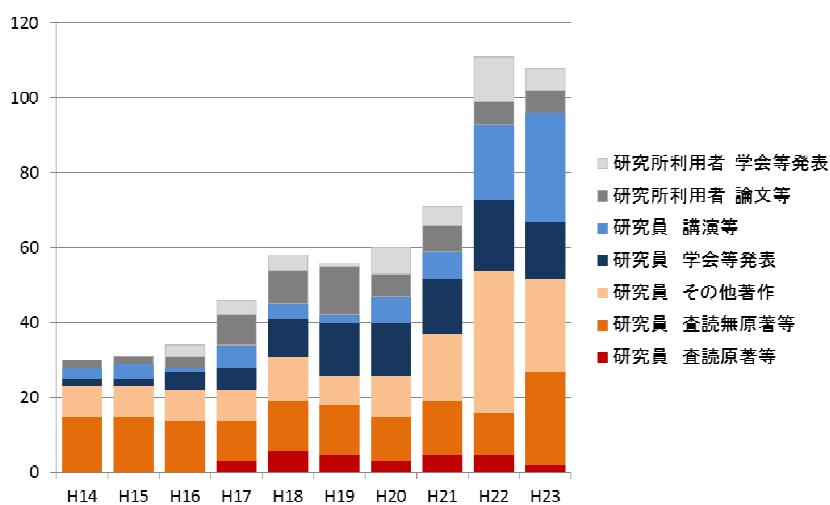
○その他講演

- ・岡本 慶. 2012.03. 黒潮流域で発見された *Chelonia* sp. と *C. agassizii* の形態比較. 黒潮生物研究所平成 23 年度研究助成成果講演会. (大阪府堺市 ステラケミファ株式会社三宝工場)
- ・戸篠 祥. 2012.03. ヒクラゲのシスト形成の解明. 黒潮生物研究所平成 23 年度研究助成成果講演会. (大阪府堺市 ステラケミファ株式会社三宝工場)

今年度の業績は、黒潮生物研究所の研究員（所長含む）による査読あり原著2件、査読なし原著等25件、その他著作25件、研究員による学会等における発表15件、その他講演会等における講演29件、研究所利用者による論文等6件、学会等における発表6件だった。

業績数は財団の活動の結果を表す大きな指標のひとつであり、平成14年度に業績を数え始めてから年々増加し、研究員による著作数52件、発表・講演数44件と、研究所長・研究員あわせて5人の小さな研究所としては、今年度も高い水準を維持した。

今年度の特徴としては、昨年度に比べて査読原著や学会発表がやや減少した一方で査読なしの著作や学会以外における講演数が増加しており、学術的成果の公表よりも普及啓発の活動が盛んであったことを示している。



研究所業績数の推移

7. 寄付等

当財団では以下の要領で一般に寄附金を募っている。

- 募集期間：随時
- 対象：当財団の活動にご賛同いただける個人・団体・法人
- 金額：金額は自由です。
- 免税措置：当財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、ご寄附を行われた場合には、所得控除や損金算入など税法上の優遇措置がうけられます。
- 特典：1,000円以上ご寄附をいただいた方には、ご寄附をいただいた年度に発行する当法人機関誌「CURRENT」（季刊年4回発行）をお送りいたしております。また、10万円以上ご寄附をいただいた方には、学術誌「Kuroshio Biosphere」（年1回発行）もお送りいたしております。

平成22年度には、本財団のメイン・スポンサーであるステラケミファ株式会社及び同社会長（当財団理事長）の深田をはじめ、以下の6法人、個人13名からご寄附をいただきました。ありがとうございました。

○ご寄附いただいた企業・法人・団体	○ご寄付いただいた個人
大阪市 ステラケミファ株式会社 様	当財団 深田純子 理事長
東京都 株式会社 東京久栄 様	下関市 園山貴之 様
東京都 キューピー株式会社 QPeace 様*	善通寺市 香川正樹 様
高知市 株式会社 京屋 様	高知市 南 寿吉 様
高知市 株式会社ワールドコーラル 近藤健治 様※	東京都 箱崎洋亮 様
高知市 株式会社マサキ珊瑚 正木長生 様※	高知市 遠近知代 様
高知市 川村サンゴ有限公司 川村裕夫 様※	高知市 多田さやか 様
	牛久市 山本秀一 様
	大阪市 川畑なぎさ 様
	南国市 西村朋宏 様
	大月町および千葉県白井市 氏名の公表を希望されない方
	佐川町 お名前公表の是非を確認できない方

*：キューピー株式会社 マッチングギフト制度「QPeace」より

『従業員が社会・環境団体に寄附を行うことを支援する取り組みとして、マッチングギフト制度「QPeace」があります。参加する従業員より、毎月100円を1口として寄附金を給与天引きし、会社からも同額を上乗せし、寄附を行う制度です。マッチングギフト制度の愛称「QPeace」は従業員から募集。支援団体も毎年従業員により選出・投票され決定します。（キューピー株式会社ホームページより）』

※：造礁サンゴ保護育成基金として

この基金は、高知県の伝統産業である珊瑚製品に関わる事業者および業界団体の発意により、これらの事業者及び業界団体からの寄附金を元に、高知県の浅海に生息する造礁サンゴをはじめ、深海に生息する宝石珊瑚などのサンゴ類が永続的に生息し続け、それらを利用した文化・経済が持続的に発展することを目的として、財団法人黒潮生物研究財団が管理・運営してサンゴ類の保護育成に係る事業を実施するものです。

平成23年度寄付金総額は、16,427,476円でした。謹んで御礼を申し上げます。